

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 づくり	施策	1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進
施策の将来の目標像	様々な啓発や教育機会の充実によって、市民の人権意識が着実に高まり、誰もが互いに尊重しあい、自らの個性と能力が発揮でき、世界の恒久平和を志向する人材が数多く育つ社会となっている。		

目的別事業群名	① 人権啓発の推進	主幹部局・所属	生活環境部 人権男女共同参画課	
連携部局・所属				
目的	市民一人ひとりが人権尊重の意識を高め、生き生きと暮らせる社会の実現			
成果項目 (成果物)	人権週間記念事業、人権教育・人権啓発指導者研修会などの開催			
成果指標 (成功基準)	人権に関するイベント・講座の参加者数 1,500人以上			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
		当初予算額		決算額
		一般財源	一般財源	
	R2 年度	44,571		人件費総額
	18,039			
R1 年度	36,153		人件費/総事業費	
	13,352			

内容

1 人権啓発の推進

(1)人権意識高揚に係る啓発の推進 (44,571千円(前年度36,153千円))

インターネットによる人権侵害など、近年の多様化・複雑化する人権課題の解消に向け、市民一人ひとりが人権を尊重することの重要性を正しく認識し、日常生活の中で根付くよう、継続的かつ効果的な啓発を実施する。

①人権啓発の推進 (8,881千円(前年度5,065千円))

ア 啓発活動の実施 (うち4,173千円)

人権問題に対する正しい理解と認識を深めて意識高揚を図るため、「人権フェスティバルひがしひろしま」や「人権教育・人権啓発指導者研修会」などの各種啓発活動を実施する。

イ 人権擁護事業への補助 (うち748千円)

東広島市竹原人権擁護委員協議会が実施する事業に対する補助を行う。

【新】ウ 人権教育及び人権啓発推進に係る市民意識調査の実施 (うち3,960千円)

本市における人権に対する意識等の現状を把握することを目的として市民意識調査を実施する。なお、現行の人権教育及び人権啓発推進基本計画は、施策を総合的かつ効果的に推進していくための実施計画として平成22年3月に改訂されたものであるが、それ以降、平成28年の部落差別解消推進法の施行や関連する法の改正、多様化する人権課題など社会情勢等も大きく変化しているため、調査結果も踏まえ、基本計画の改訂の検討をしていく。



人権フェスティバル



人権擁護事業（人権教室）

②人権センターの管理運営 (35,690千円(前年度31,088千円))

ア 人権センターの管理運営 (うち33,537千円)

市民の福祉向上や人権啓発の推進の拠点となる市内4人権センターの維持管理を行う。

イ 交流促進講座等の開催 (うち2,153千円)

市民相互の交流によって本市に生きることに誇りを持つ地域社会づくりに資するため、地域ニーズに即した各種教養・文化活動等の講座を開催する。

H30年度実績:32講座、6,544人参加



東広島市人権センター
夏休み木工教室



黒瀬文化会館
いきいき・ふれあい発表会

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進	① 人権啓発の推進

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	上段:目標値 中段:実績値 下段:達成率	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
			R1	R2	R3		
(7) 人権に関するイベント・講座の参加者数	1,421 (H29)		1,500	1,500	1,500	1,500 (R6)	人
(4)	()					()	
(9)	()					()	
(1)	()					()	
(4)	()					()	
(6)	()					()	
成果指標項目 (定性的指標)							達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 人権に関するイベント・講座の参加者数	・参加者数は概ね増加傾向にあるが、ばらつきが生じている。人権尊重意識の高揚を図るには、一定程度以上の参加者数が必要である。	・近年は人権問題が多様化しており、テーマによって関心の高低が見られる。	・時流に沿ったテーマを設定することや、人権と親和性の高い他の行事と同時開催することで、関心の向上が図られる。	人権フェスティバル等の開催及び啓発の拠点となる人権センターの運営を行う。
(4)				
(9)				
(1)				
(4)				
(6)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	人権啓発推進事業 3・1・6	人権男女共同参画課		5,065	8,881	70.0%
2	人権センター管理運営事業 3・1・6	人権男女共同参画課		31,088	35,690	30.0%
3	. .					
4	. .					
5	. .					
6	. .					
7	. .					
8	. .					
9	. .					
10	. .					
11	. .					
12	. .					
13	. .					
14	. .					
15	. .					

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度	寄与度
5 施策に対する目的別事業群の寄与度評価	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-color: #e0e0e0; position: relative;"> 決算時記載 </div>	
6 今後に向けての方針と分析		

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 人づくり	施策	1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進
施策の将来の目標像	様々な啓発や教育機会の充実によって、市民の人権意識が着実に高まり、誰もが互いに尊重しあい、自らの個性と能力が発揮でき、世界の恒久平和を志向する人材が数多く育つ社会となっています。		

目的別事業群名	② 男女共同参画の推進	主幹部局・所属	生活環境部 人権男女共同参画課	
連携部局・所属				
目的	性別にかかわらず個性と能力を発揮できる男女共同参画社会の実現			
成果項目 (成果物)	各種啓発活動			
成果指標 (成功基準)	男女共同参画に関する講座等の参加者数 1,000人以上			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
		当初予算額		決算額
		一般財源	一般財源	人件費総額
	R2 年度	3,661		
	3,658			
R1 年度	7,204		人件費/総事業費	
	7,200			

内容

1 男女共同参画の推進

(1) 男女共同参画理解促進に係る啓発の推進 (3,661千円(前年度7,204千円))

平成30年に行った市民意識調査では、男女の地位が平等だと感じる人の割合が依然として低く、また、性別による役割分担意識が根強く残っていることから、男女共同参画に関する理解促進、意識啓発のための各種事業を実施する。

① 男女共同参画の推進 (3,661千円(前年度7,204千円))

ア エスポワールの運営 (うち3,041千円)

男女共同参画社会づくりを推進していくため、活動推進員を配置し、各種情報の収集、提供や、講座等を開催する。

イ 啓発活動の開催 (うち620千円)

男女共同参画に関する意識醸成を図るため、キャリアデザイン講座やその他啓発活動を開催する。



おしゃべりカフェ連続講座



おしゃべりカフェ特別講座

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進	② 男女共同参画の推進

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 男女共同参画に関する講座・講演会等の参加者数	584 (H30)	1,000	1,000	1,000	1,000 (R6)	人
(4)	()				()	
(9)	()				()	
(1)	()				()	
(4)	()				()	
(6)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 男女共同参画に関する講座・講演会等の参加者数	・講座によって参加者数にはばらつきがある。男女共同参画に関する認識を深めるためには、一定程度以上の参加者数が必要である。	・テーマや開催日時、場所等の市民ニーズに合った開催が必要。	・時流に沿ったテーマを設定することや、多様な手法を用い、学習機会を充実することで、参加機会が増える。	関係団体と連携しながら、女性向けの連続講座や高校生を対象としたキャリアデザイン講座、出前講座などを開催する。
(4)				
(9)				
(1)				
(4)				
(6)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	男女共同参画推進事業 3・1・6	人権男女共同参画課		7,204	3,661	100.0%
2	. .					
3	. .					
4	. .					
5	. .					
6	. .					
7	. .					
8	. .					
9	. .					
10	. .					
11	. .					
12	. .					
13	. .					
14	. .					
15	. .					

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度	寄与度
5 施策に対する目的別事業群の寄与度評価	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-color: #e0e0e0; position: relative;"> 決算時記載 </div>	
6 今後に向けての方針と分析		

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 人づくり	施策	1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進
施策の将来の目標像	様々な啓発や教育機会の充実によって、市民の人権意識が着実に高まり、誰もが互いに尊重しあい、自らの個性と能力が発揮でき、世界の恒久平和を志向する人材が数多く育つ社会となっています。		
目的別事業群名	③ 平和を希求する人材の育成	主幹部局・所属	総務部 総務課
連携部局・所属			
目的	戦争の愚かさや原爆の悲惨さを理解し、平和への願いを語る人材の輩出		
成果項目 (成果物)	戦争被爆体験証言者の育成・派遣、巡回原爆展の開催、被爆体験伝承者の育成、市民の平和意識の高揚		
成果指標 (成功基準)	市内小中学校における被爆体験証言講話または巡回原爆展の実施率の倍増(開催校の累計30%以上) 戦争・被爆体験証言の受講をきっかけとした市内小中学校出身者の高校生平和大使への就任(1名以上)		
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)
	当初予算額	決算額	
	一般財源	一般財源	人件費総額
	R2 年度	2,206	
	2,206		人件費/総事業費
R1 年度	1,327		
	1,327		

内容

1 平和を希求する人材の育成

(1) 平和に関する取組の充実 (1,842千円(前年度963千円))

戦後75年を迎え、戦争・被爆体験者から直接、戦争の悲惨さや核兵器の残虐さを聴くことのできる機会が減少している。その機会の確保と、全国の自治体や平和活動団体と連携した平和・非核兵器に関する情報発信を行う。

① 平和に関する国内加盟都市会議 (45千円(前年度98千円))

平和の推進のための研修会等(全国規模)への参加

団体名(会議名)	開催実績(出席団体数)			
	H29	H30	R1	R2
日本非核宣言自治体協議会(研修会)	武蔵野市(57)	米原市(39)	伊勢市(R2.2開催)	高山市(R3.2予定)
平和首長会議(国内加盟都市会議総会)	長崎市(64)	高山市(91)	国立市(83)	広島市(R2.8予定)



平和首長会議(国内加盟都市会議総会):R1国立市



② 平和に関する啓発 (1,670千円(前年度655千円))

平和祈念式典のほか、小中学生をはじめ、市民が平和・非核兵器について学ぶことのできる機会を提供する。

ア 戦没者追悼式並びに平和祈念式典の開催(8月) 会場:黒瀬生涯学習センター(健康福祉部共催)



平和祈念式典



平和祈念式典
(子ども平和メッセージ)



平和祈念式典
(児童合唱団)

【新】イ 平和祈念ロービーコンサートの開催(うち602千円)

被爆75周年記念事業 被爆ピアノの展示及び平和祈念ロービーコンサートの開催

【拡】ウ 巡回原爆展の実施(うち341千円)

小中学校・地域センター等で開催。さらに開催機会の増加を図る → 展示パネル(A1サイズ)追加作製
R1実績 4回開催(小学校2、中学校1、地域センター1)

エ 被爆体験証言者の派遣

市内小中学校、高校、大学及び住民自治協議会等への被爆体験証言者の派遣
R1実績 派遣回数6回、受講者1,529人



巡回原爆展



展示パネル



被爆体験証言者派遣

オ 都市宣言デジタル表示盤の活用

平和へのメッセージ等の表示(市役所2階渡り廊下側面)

③ 平和団体との連携 (127千円(前年度210千円))

他の自治体や平和活動団体との連携を深め、広域のかつ多角的な平和・非核兵器に関する情報発信を行う。

日本非核宣言自治体協議会	加盟自治体:342	会長都市:長崎市
平和首長会議	加盟自治体:1,732(国内) 7,847(全世界)	会長都市:広島市

(2) 原爆被爆資料保存事業等の支援 (364千円(前年度364千円))

原爆被爆資料を保存するとともに、戦争の愚かさや平和の重要性を若い世代に伝承する活動を支援する。

① 平和学習活動、原爆被爆資料展示、被爆証言活動の支援

ア 平和学習活動:市立小中学生・一般参加者による平和学習バスの運行(7月) R1実績 参加者127人

イ 原爆被爆資料展示:サンスクエア東広島2階、八本松地域センター内展示室、特別展の開催

ウ 被爆証言活動:被爆者が自らの体験を次代へ語り継ぎ、戦争の愚かさや恒久平和への道を示す活動



平和学習バス



原爆被爆資料展示室



被爆証言活動

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	1 人権・平和の尊重と男女共同参画の推進	③ 平和を希求する人材の育成

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 市内小中学校における被爆体験証言講話または巡回原爆展の実施率の倍増(過去開催累積)	14.5 (H30)	20	30	50	100 (R6)	%
(4) 戦争・被爆体験証言の受講をきっかけとした市内小中学校出身者の高校生平和大使への就任	0 (H30)	1	1	1	1 (R6)	人
(9)	()				()	
(イ)	()				()	
(オ)	()				()	
(カ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標) 戦後75年が経過しようとする中、戦争体験者や原爆被爆者の高齢化が進み、若い世代が戦争・被爆体験者から直接、戦争の悲惨さや核兵器の残虐さを聴くことのできる機会が減少しつつある。市民ひとり一人が平和・非核に対する関心・意識を高め、戦争のない平和な世界を求める機運が高まる取組みを推進する。						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 市内小中学校における被爆体験証言講話または巡回原爆展の実施率の倍増(過去開催累積)	・市内小中学校が、これまでに被爆者証言の受講または巡回原爆展を実施した割合が14.5%(H30までの実績)にとどまっている。	・戦争体験者や原爆被爆者の高齢化が進んでおり、直接話を聞ける貴重な機会が減少しつつある。	・戦争・被爆体験の伝承をより多くの学校で行えば、多くの児童生徒が平和・非核兵器について深く学び、考えることができるようになり、平和を希求する人材の育成のすそ野が広がる。	・市内小中学校に対し、戦争・被爆体験証言や巡回原爆展の積極的な受け入れを促す。
(4) 戦争・被爆体験証言の受講をきっかけとした市内小中学校出身者の高校生平和大使への就任	・平和を希求する人材の育成の対象が小中学生にとどまっている。	・平和の大切さを伝える中で、それが次代へつながっていくことを意識した活動に取り組む必要がある。	・平和学習の中で、戦争・被爆体験の伝承を行えば、高校生が平和・非核兵器について、より深く学ぶことができるようになる。	・市内高等学校に対し、戦争・被爆体験証言や巡回原爆展の積極的な受け入れを促す。
(9)				
(イ)				
(オ)				
(カ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	平和行政推進事業 2・1・12	総務課		1,327	2,206	100.0%
2	. .					
3	. .					
4	. .					
5	. .					
6	. .					
7	. .					
8	. .					
9	. .					
10	. .					
11	. .					
12	. .					
13	. .					
14	. .					
15	. .					

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度	寄与度
4		
5 施策に対する目的別事業群の寄与度評価	決算時記載	
6 今後に向けての方針と分析		

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 づくり	施策	2 乳幼児期における教育・保育の充実
施策の将来の目標像	子どもたちの健やかな成長のため、子育て家庭が必要な養育力を備えるとともに、質の高い教育・保育環境が整っています。		

目的別事業群名	① 幼児教育・保育の充実	主幹部局・所属	こども未来部 保育課
連携部局・所属	こども未来部	こども家庭課	
	学校教育部	教育総務課	
	学校教育部	学事課	
	学校教育部	指導課	
目的	・教育・保育の質の向上に資する取組みの推進 ・保育者の資質向上のための研修等の充実 ・幼小の接続に向けた交流・連携の推進 ・0歳から就学までの子育て、家庭教育の支援		
成果項目 (成果物)	子育てサポート研修参加者、子育てサポーター登録数		
成果指標 (成功基準)	子どもの育ちを実感できる人の割合		
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)
		当初予算額 一般財源	
	R2 年度	491,469 169,451	
	R1 年度	384,397 188,341	人件費総額 人件費/総事業費

内容	
1 乳幼児期における教育・保育の質の向上 (1) 保育環境の充実 (6,787千円 (前年度4,235千円)) ① 保育の魅力の向上 (6,787千円(前年度4,235千円)) 【新】ア 質の高い保育実践のための調査研究(うち2,217千円) 保育現場における質の高い実践のため、有識者等との意見交換や広島県の取組みを参考に、本市における保育のあるべき姿を探る。 イ 保育者に対するキャリアアップ等の支援 保育者のキャリアアップ・スキルアップに資する研修の実施 保育支援アドバイザー(1人)の巡回相談による若手保育士や保育事業者の支援 (2) 幼児教育環境の充実 (478,873千円(前年度376,570千円)) 【拡】① 幼児教育の支援 (422,274千円(前年度312,723千円)) ア 幼稚園利用料及び預かり保育料の支給 【対象施設】 子ども・子育て支援新制度に移行していない私立幼稚園及び国立大学附属幼稚園 【対象人数】 1,325人 イ 副食費(おかず、おやつ等)の支給 【対象者】 年収360万円程度以下の世帯の子ども及び全世帯の第3子以降の子ども(200人) ② 私立幼稚園への助成 (1,605千円(前年度1,872千円)) ア 優良図書等教材購入費や研修活動費の補助 【対象数】 6園	

③ 市立幼稚園の運営 (14,567千円(前年度9,241千円))

ア 代替教諭・臨時教諭・養護講師の配置

イ 関係団体への負担金等

【対象】 広島県国公立幼稚園連盟、幼稚園教職員研修会

④ 市立幼稚園の管理 (14,232千円(前年度11,902千円))

ア 幼稚園運営に必要な物品購入

イ 幼稚園運営に係る諸経費

【内容】 光熱費等

⑤ 市立幼稚園の施設整備 (2,700千円(前年度18,207千円))

【内容】 八本松中央幼稚園・御園宇幼稚園空調機移設業務

⑥ 市立幼稚園の環境整備 (23,321千円(前年度22,625千円))

ア マイタウンティーチャー・学生マイタウンティーチャーの派遣

イ 教育補助員の配置

【配置人数】 御園宇幼稚園5人、八本松中央幼稚園5人

ウ 図書整備

【図書購入冊数】 御園宇幼稚園43冊、八本松中央幼稚園43冊

2 子育て家庭の養育力の向上に向けた対応

(1) 子育て力の向上 (5,598千円(前年度3,592千円))

① 子育て支援者の育成 (4,933千円(前年度3,592千円))

ア 保育士(保育所、子育て支援センター)のスキル向上、地域の子育て支援者の育成を目的とした研修開催

(ア) 子育てサポート研修

研修コース	初級	中級	上級
対象者	保育経験1～2年	保育経験5年前後	保育経験10年以上
対象者数	各コース70人		
研修内容	【専門別研修5回】 ・幼児教育1回 ・発達障害児支援1回 ・食育1回 ・応急手当講習1回 ・保護者支援1回	【専門別研修4回】 幼児教育1回 障害児保育1回 食育1回 応急手当講習1回	【専門別研修7回】 幼児教育1回 障害児保育1回 食育1回 応急手当講習1回 保護者支援1回 マネジメント2回

(イ) キャリアアップ研修

【対象者】 保育所及び認定こども園等の保育士70人

【研修内容】 広島県認定の保育士キャリアアップ研修 3回

(ウ) 東広島市保育コーディネーター養成講座、フォローアップ研修

	養成講座	フォローアップ研修
対象	市内保育施設の保育士	
対象者数	30人	70人
内容	・ソーシャルワーク ・専門機関との連携	・虐待対応の事例検討 ・巡回相談時の事例検討

(エ) 子育てサポーター養成講座

地域の子育て支援者の育成を目的とした子育てサポーター養成講座 3回

イ 学童保育指導員のスキル向上を目的とした研修

【対象者】 いきいきこどもクラブ指導員90人

【研修内容】 児童期の保育・教育、障害児支援を内容とした研修3回

ウ 子育て支援者連携会議の開催

【対象者】地域子育て支援センターの支援員

【内容】地域の子育て支援者間の情報共有と連携を目的とした会議4回

【新】②保護者の子育て力向上（665千円）

ア 電子母子手帳による子育て力向上

電子母子手帳の機能を持つアプリの導入

妊娠、出産、育児の情報を適切な時期に配信し家庭養育力の向上を支援

・アプリの機能：イベント情報の自動配信、予防接種スケジュール管理、子どもの成長記録

3 幼稚園、保育所、小学校の連携・接続の充実

(1)幼稚園、保育所、小学校の連携・接続の充実（385千円（前年度0千円））

①保育の魅力向上の推進（211千円）、幼稚園教育の推進（174千円）

幼児期の教育・保育と小学校教育の担い手が相互の共通性や相違性を理解し、問題点や課題を共有して教育・保育に取り組むため、研修や交流プログラム等による幼保小の連携推進を図る。

ア 連携研修会及び公開研究会の開催

【テーマ】子どもも大人も脳力&能力アップ！コーディネーショントレーニング

【講座回数】4回

【内容】幼稚園・保育園・小学校の情報の共有及び取組みの一体化を目指し、研修会及び公開保育を実施

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	2 乳幼児期における教育・保育の充実	① 幼児教育・保育の充実

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定性的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 幼稚園に通わせている保護者の、教育又は保育への肯定的回答(楽しんで通っている)の割合	95.0 (H30)	98	98	98	98 (R6)	%
(4) 保育所等に通わせている保護者の、教育又は保育への肯定的回答(楽しんで通っている)の割合	— (H30)	98	98	98	98 (R6)	%
(9)	()				()	
(イ)	()				()	
(オ)	()				()	
(カ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 幼稚園に通わせている保護者の、教育又は保育への肯定的回答(楽しんで通っている)の割合	遊びなどの体験が不足したり、集団生活に困難さを感じたりしている子どもが増加している。	・特別な支援が必要な子どもたち等への適切な支援。 ・遊びを通しての総合的な指導の充実。 ・保幼小による定期的な連携の必要性。	・教育補助員の適切な配置や研修を充実させることにより、子どもたちが楽しんで幼稚園に通うことができる。	・指導者研修の充実 ・幼稚園施設環境の整備 ・外部講師や支援員・補助員の配置 ・幼・保・小連携の強化
(4) 保育所等に通わせている保護者の、教育又は保育への肯定的回答(楽しんで通っている)の割合	子どもの豊かな体験を育み、主体的に学ぶことができる環境づくり、保育を実施する必要がある。	・本市における保育実践に係る取組み方針がない。 ・保育の質向上には保育者のスキルアップが不可欠である。 ・幼小の接続を見通した連携が必要である。	・本市の保育の在るべき姿が示されることにより、保育の質向上に資する具体的取組みが進むとともに、保育者のスキルも向上していく。 ・幼小の連携により、幼児期と児童期の教育・保育のギャップが埋まっていく。	・保育の質向上についての検討 ・保育者のキャリアアップ支援 ・子育て支援者の育成 ・幼・保・小の連携、接続の充実
(9)				
(イ)				
(オ)				
(カ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	保育の魅力向上推進事業 3・2・1	保育課		4,235	6,998	60.0%
2	子育て力向上事業 4・1・3	こども家庭課		3,592	5,598	30.0%
3	幼児教育支援事業 10・4・1	学事課		312,723	422,274	1.0%
4	私立幼稚園助成事業 10・4・1	学事課		1,872	1,605	1.0%
5	幼稚園運営事業 10・4・1	学事課		9,241	14,567	2.0%
6	幼稚園管理事業 10・4・1	教育総務課		11,902	14,232	1.0%
7	幼稚園施設整備事業 10・4・1	教育総務課		18,207	2,700	2.0%
8	幼稚園教育推進事業 10・4・1	指導課		22,625	23,495	3.0%
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

4 目的別事業群の進捗度評価

No.	施策	進捗度		寄与度
		進捗度	進捗度	
5	施策に対する目的別事業群の寄与度評価			

決算時記載

6 今後に向けての方針と分析

--	--	--	--	--

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 づくり	施策	3 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践
施策の将来の目標像	すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けられ、青少年が将来に夢と希望をもち、主体性と創造性をもった人間として健やかに成長し、活動していくことができる安全・安心な社会環境が整っています。		

目的別事業群名	① 学校運営の支援と教育内容の充実	主幹部局・所属	学校教育部 指導課	
連携部局・所属	学校教育部 教育総務課			
	学校教育部 学事課			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・東広島市教育の伝統継承(一校一和化学習/東広島スタンダード/活発な授業研究) ・東広島市の教育資源の積極的活用 ・新学習指導要領など新たな教育課題への対応 ・質の高い教育環境の整備 			
成果項目(成果物)	<ul style="list-style-type: none"> ・第五次学校教育レベルアッププラン ・各種教職員研修 ・学校教育施設、備品、人的教育資源等児童生徒の教育環境 			
成果指標(成功基準)	「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童・生徒の割合(小学校90%/中学校90%)			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
	R2 年度	当初予算額		決算額
		一般財源		一般財源
	R1 年度	6,435,307		
		3,603,403		
	3,906,941			
	2,637,133			
		人件費総額		
		人件費/総事業費		

内容

1 学校運営の支援と教育内容の充実

(1) 児童生徒の学力等向上や教員の指導力向上 (308,864千円(前年度190,258千円))

① 学校教育の推進 (142,926千円(前年度21,697千円))

ア 市教育推進指定校による研究会

【指定校数】 6校

イ 「第五次学校教育レベルアッププラン」による事業実施

【実施内容】 講演会(8月)

【拡】ウ 学校運営協議会の設置(うち180千円(前年度22千円))

【設置校数】 3校に委員45名(各15名)

エ 市教育委員会主催研修

【実施内容】 25講座30回

オ 標準学力検査(NRT)の実施

【実施時期】 6月

【実施校数】 全小学校第2学年～第4学年(国語、算数)及び第5学年(国語、算数、理科) 全中学校第1学年～第2学年(国語、数学、理科)

【拡】カ 教師用教科書及び指導書購入(うち129,795千円(前年度8,115千円))

・新学習指導要領適応のため教師用教科書及び指導書購入(473学級)ほか

【拡】キ 社会科副読本整備(うち1,422千円(前年度924千円))

・小学校中学年用社会科副読本の全面改訂

② 外国語教育の推進 (105,255千円(前年度102,135千円))

ア 外国語指導助手(ALT)派遣

【体制】 外国青年招致事業(JETプログラム)参加者19名(全小中学校)、コーディネーター1名

イ 外国語指導力向上研修実施

【実施内容】 小・中学校英語教育指導者研修(2回)

ウ 英検IBAの実施

【実施対象】 全ての中学校第2学年及び第3学年 約3,200人

エ 丸ごと1日英語体験～ENGLISH Challenge Day～

【対象】 中学生(45名程度)

【場所】 ひろしま国際プラザ



丸ごと1日英語体験～ENGLISH Challenge Day～の様子

③ 子どもの読書活動の推進 (29,790千円(前年度38,391千円))

【拡】ア 学校司書の配置(うち25,864千円(前年度21,440千円))

【配置人数】 小学校11名、中学校14名

イ 学校図書館システムの活用



学校図書館での読書の様子

④ 部活動等の支援 (27,871千円(前年度23,352千円))

ア 大会及び団体への負担金、補助金

【負担金】 中学校体育連盟

【補助金】 中国中学校駅伝競走大会、東広島市小学生体育連盟

イ 児童・生徒の大会への派遣費補助

【対象大会】 中学校体育連盟主催大会、中学校文化部連盟大会、小学校文化活動の中国大会・全国大会

【対象経費】 交通費、宿泊費、機材運搬費

【拡】ウ 部活動指導員の配置(うち3,639千円(前年度2,185千円))

【人数】 4校～4名(前年度2名)

⑤ 教育交流の推進 (3,022千円(前年度4,683千円))

ア 北海道北広島市との交流活動実施

【交流時期】 8月に受入と派遣

【受入人数】 18名

【派遣人数】 20名

イ 中国四川省徳陽市との交流活動実施

【交流時期】 7月に受入

【受入人数】 10名



全国大会社行会の様子

(2) 学校の管理運営 (1,132,282千円(前年度957,508千円))

【拡】① 小・中学校運営の支援 (53,493千円(前年度40,848千円))

ア 学校運営体制の確保

【小学校への配置数】 看護師1名、学校事務職3名、養護講師2名

【中学校への配置数】 講師8名、学校事務職4名

イ 関係団体への負担金及び補助金

【負担金】 広島県連合小学校長会、広島県公立学校校長会連合会、広島県公立中学校長会、

広島県公立小・中学校事務長会、広島県小学校教育研究会、広島県中学校教育研究会

【補助金】 東広島市小学校教頭会、東広島市中学校教頭会、東広島市立学校教育研究会

② 小・中学生への通学支援 (95,056千円(前年度94,872千円))

ア スクールバス・スクールタクシー運行

【対象小学校区】 入野小、板城小、西志和小、中黒瀬小、豊栄小、河内小、風早小

【対象中学校区】 高屋中

イ 遠距離通学児童生徒の通学費補助

【小学校】 三ツ城小、川上小、中黒瀬小、久芳小

【中学校】 高屋中、河内中

ウ 自転車通学生徒ヘルメット購入費の補助

【対象者】 市内全中学校生徒(1,330名分)
【補助率】 7割

③小・中学校の管理(933,230千円(前年度775,725千円))

ア 学校運営に必要な机・椅子等の物品購入
イ 学校施設の維持管理等に係る諸経費

④小・中学校の教材整備(50,503千円(前年度46,063千円))

ア 各教科別に必要な物品購入
イ 理科、算数、数学振興備品の購入

【拡】(3)学校の特色ある教育活動(62,143千円(前年度40,533千円))

①学校の特色ある教育活動の応援

ア 学校づくりの応援

【校内研修の充実】

- ・マイトウンティーチャーの派遣(年間1,400回分)
- ・学生マイトウンティーチャーの派遣(年間160回分)
- ・校内研修講師派遣(年間61回分)

【地域に根差した学校づくり】

- ・和文化等講師派遣(年間80回分)

【魅力ある学校環境づくり】

- ・校内緑化活動、図書館環境整備等

イ 学校経営のアドバイス

- ・学校経営アドバイザーの派遣(4名)

一校一和文化の発表



校内緑化活動

【拡】ウ 魅力ある授業の応援(うち17,492千円(前年度13,227千円))

- ・教科等指導支援員の配置(7名)←(前年度6名)

エ 学校業務の応援

- ・希望校へのスクールサポーターの派遣(97名の登録者、2,200時間分)

【新】オ コミュニティ・スクール等の推進(うち17,081千円)

- ・コミュニティ・スクール推進員の配置(8名)

(4)教育環境の充実(3,850,684千円(前年度1,724,347千円))

①小・中学校の図書館整備(14,813千円(前年度14,678千円))

ア 図書を購入

【小学校】 4,746冊
【中学校】 2,829冊

②小・中学校情報機器の管理(421,032千円(前年度259,353千円))

【拡】ア 校務・学習用学校端末の整備及び管理(うち306,266千円(前年度101,511千円))

【更新台数】 505台(小学校8校、中学校5校のPC教室学習用端末)

【整備台数】 5,340台(小学校5~6年生児童、中学校1年生生徒の1人1台学習用端末)

イ 大型提示装置(電子黒板)の整備及び管理

【台数】 60台(市内全小中学校への追加大型提示装置)

ウ 無線LANアクセスポイント・ネットワークの整備及び管理

【アクセスポイント設置数】 45個(向陽中、福富小・中学校)

エ 統合サーバ・校務支援システム運用及び管理

【対象校数】 49校(市内全小・中学校)

【新】オ 遠隔授業の試行(うち1,485千円)

【実施校数】 3校(河内小、入野小、河内中)

【拡】③小・中学校の施設整備等(3,414,839千円(前年度1,450,316千円))

ア 八本松小学校グラウンド造成

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
造成設計							
用地取得							
工事							

(八本松小学校グラウンド)
事業面積 17,396㎡
概算総事業費 約10.6億円
(R2事業内容)
造成工事

イ 川上小学校グラウンド造成(調整池を含む)

	H30	R1	R2	R3	R4
用地測量					
基本設計					
用地取得					
実施設計					
工事					

(川上小学校グラウンド)
事業面積 12,454㎡
概算総事業費 約8億円
(R2事業内容)
実施設計(R1繰越)
造成工事

ウ 福富小中学校一体型施設整備(施設改修工事含む)

	H30	R1	R2	R3	R4
基本設計					
建築実施設計					
造成測量設計					
建築工事					
造成工事					

(福富小中学校一体型施設)
事業面積 41,700㎡
概算総事業費 約10.6億円
(R2事業内容)
校舎増築等工事

エ 河内小中学校一体型施設整備(施設改修工事含む)

	H30	R1	R2	R3	R4
基本設計					
建築実施設計					
造成測量設計					
用地取得					
造成工事					
建築工事					

(河内小中学校一体型施設)
事業面積 20,800㎡
概算総事業費 約10.5億円
(R2事業内容)
校舎増築等工事

オ 志和小中学校一体型施設整備(大規模改修工事含む)

	H30	R1	R2	R3	R4
基本設計					
建築実施設計					
造成測量設計					
用地取得					
造成工事					
建築工事					

(志和小中学校一体型施設)
事業面積 32,346㎡
概算総事業費 約28.6億円
(R2事業内容)
校舎増築等工事

カ 向陽中学校大規模改修工事

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
予備設計						
実施設計						
工事						

(向陽中学校校舎及び屋内運動場)
改修床面積 6,036㎡
概算総事業費 約10.4億円
(R2事業内容)
大規模改修工事

キ PFI事業による空調設備整備(普通教室等)

	H30	R1	R2	R3~R14
調査・契約事務				
設計				
施工				
維持管理(13年間)				

(PFI事業による空調設備整備)
小中学校29校の普通教室等
総事業費 約24.2億円
(R2事業内容)
施工・維持管理(13年間)

ク その他

- ・トイレ改修工事(東西条小・板城西小・上黒瀬小・黒瀬中)
- ・学校施設長寿命化計画策定業務
- ・受水槽改修設計業務(東西条小)
- ・屋内運動場屋根改修設計業務(御園宇小)
- ・屋根防水改修設計業務(中黒瀬小)
- ・トイレ洋便器化に伴う改修

(5)児童生徒の健康の保持増進(1,081,334千円(前年度994,295千円))

①学校保健の促進(96,132千円(前年度94,489千円))

ア 各種健康診断及び各種学校環境衛生検査の実施

【健康診断実施内容】

- ・児童生徒等の健康診断
(内科検診、歯科検診、眼科検診、耳鼻科検診、結核検診、尿検査、心音心電図検査)
- ・就学時の健康診断
- ・教職員の健康診断、ストレスチェック

【学校環境衛生検査実施内容】

- ・空気中の化学物質濃度検査
- ・プール水水質検査
- ・飲料水水質検査
- ・教室等の環境検査

イ 各種保険等への加入及び関係団体への補助金交付、研修等参加費助成

【加入保険等】

- ・日本スポーツ振興センター災害共済
- ・全国市長会学校災害賠償補償保険

【負担金】

- ・日本スポーツ振興センター
- ・広島県学校保健会
- ・衛生推進者・管理者等養成講習会参加費

【補助金】

- 東広島市学校保健会

②学校給食の管理運営(985,202千円(前年度899,806千円))

ア 給食従事者の健康診断及び学校給食センター内衛生管理検査の実施

【検査内容】

- 定期健康診断(7~8月)、腸内細菌検査(毎月2回)、ノロウイルス検査(10~3月に月1回)、衛生管理検査(年2回)

【健康診断対象給食従事者人数】 90名

イ 給食従事者への研修の実施

【研修内容】

- 栄養教諭・学校栄養職員研修会(6月、1月)、学校給食業務研修会(8月)

ウ 学校給食センターの施設等の管理及び各受配校配膳室の物品等の管理

(ア) 東広島学校給食センター施設等の管理

(イ) 西条学校給食センター施設等の管理

(ウ) 東広島北部学校給食センター施設等の管理

(エ) 安芸津学校給食センター施設等の管理

- ・空調設備及びボイラー更新(ESCO事業)(うち2,000千円)

【新】エ 学校給食費管理システム導入(うち23,851千円)

【内容】 給食費徴収業務

【構築期間】 令和2年7月~令和3年1月

【稼働時期】 令和3年4月~

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	3 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	① 学校運営の支援と教育内容の充実

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童(小学生)の割合	(R1) 89	89	90	90	(R6) 90	%
(4) 「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒(中学生)の割合	(R1) 88	88	90	90	(R6) 90	%
(9) 「学校へ行くのが楽しい」と回答した教職員の割合	(R1) 0	80	80	80	(R2) 80	%
(イ)	()				()	
(オ)	()				()	
(カ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

上段: 目標値
中段: 実績値
下段: 達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童(小学生)の割合	国や県と比べると、本市は高い数値を示している。	新学習指導要領の理念に基づいた教育を充実させるために、学校への継続した支援が必要である。	学校への継続した支援を行えば、充実した教育が展開され、児童の学校への満足度が高まるであろう。	・学校教育レベルアップ ランの周知及び推進 ・教職員研修の充実
(4) 「学校へ行くのが楽しい」と回答した生徒(中学生)の割合	国や県と比べると、本市は高い数値を示している。	新学習指導要領の理念に基づいた教育を充実させるために、学校への継続した支援が必要である。	学校への継続した支援を行えば、充実した教育が展開され、生徒の学校への満足度が高まるであろう。	・学校教育レベルアップ ランの周知及び推進 ・教職員研修の充実
(9) 「学校へ行くのが楽しい」と回答した教職員の割合	現状の把握は出来ていない。	現状の把握は出来ていない。	教職員が職に応じた力量を形成し、働き方改革の支援策を講じれば、学校の満足度が高まるであろう。	・働き方改革方針に基づいた教職員の働き方改革支援計画推進 ・教職員研修の充実
(イ)				
(オ)				
(カ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	学校教育推進事業 10・1・3	指導課		21,697	142,926	10.0%
2	外国語教育推進事業 10・1・3	指導課		102,135	105,255	10.0%
3	学校図書館運営事業 10・1・3	指導課		38,391	29,790	5.0%
4	学校の元気応援事業 10・1・3	指導課		40,533	62,143	30.0%
5	小学校運営事業と中学校運営事業 10・2及び3・1	学事課		40,848	53,493	4.0%
6	小学校通学支援事業と中学校通学支援事業 10・2及び3・1	学事課		94,872	95,056	2.0%
7	部活動等支援事業 10・1・3	指導課		23,352	27,871	3.0%
8	教育交流事業 10・1・3	教育総務課		4,683	3,022	2.0%
9	小学校管理事業と中学校管理事業 10・2及び3・1	教育総務課		775,725	933,230	2.0%
10	小学校教材整備事業と中学校教材整備事業 10・2及び3・2	教育総務課		46,063	50,503	2.0%
11	小学校図書整備事業と中学校図書整備事業 10・2及び3・2	指導課		14,678	14,813	2.0%
12	小学校施設整備事業と中学校施設整備事業 10・2及び3・3	教育総務課		1,450,316	3,414,839	10.0%
13	小学校情報機器管理事業と中学校情報機器管理事業 10・2及び3・1	教育総務課		259,353	421,032	8.0%
14	学校保健事業 10・1・3	学事課		94,489	96,132	4.0%
15	学校給食管理運営事業と学校給食センター管理運営事業 10・6・3	学事課・学校給食センター		899,806	985,202	6.0%

4 目的別事業群の進捗度評価

No.	目的別事業群	進捗度		寄与度
		現状	目標	
5	施策に対する目的別事業群の寄与度評価	決算時記載		
6	今後に向けての方針と分析			

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 づくり	施策	3 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践
施策の将来の目標像	すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けられ、青少年が将来に夢と希望をもち、主体性と創造性をもった人間として健やかに成長し、活動していくことができる安全・安心な社会環境が整っています。		

目的別事業群名	② 特別なニーズに対応した教育の充実	主幹部局・所属	学校教育部 指導課	
連携部局・所属	学校教育部 教育総務課			
	学校教育部 学事課			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における特別な支援を要する児童生徒の学びの基盤整備 ・一人ひとりの教育的ニーズへの対応 			
成果項目 (成果物)	<ul style="list-style-type: none"> ・第五次学校教育レベルアッププラン ・各種教職員研修 ・人的教育資源等児童生徒の教育環境 			
成果指標 (成功基準)	特別支援学級に在籍する児童・生徒保護者の教育活動に対する肯定的回答の割合(75%)			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
		当初予算額		決算額
		一般財源	一般財源	
	R2 年度	475,839		人件費総額
	466,861			
R1 年度	426,733		人件費/総事業費	
	421,570			

内容

1 特別なニーズに対応した教育の充実

(1) 特別な支援を要する児童生徒への教育推進 (297,741千円(前年度257,728千円))

障害等による特別な支援を要する子ども及び外国につながる子ども一人ひとりのニーズに適切に対応し、特別支援教育及び日本語指導等教育活動の充実を図る取組

① 特別支援教育の推進 (7,716千円(前年度6,256千円))

ア 特別支援教育サポーター及び特別支援教育大学生サポーターの派遣

【派遣回数等】 特別支援教育サポーター 3,700時間分、特別支援教育大学生サポーター 600回分

イ 特別支援教育担当者会及び巡回相談の実施

【担当者会回数】 3回 (特別支援学級担当者ほか対象)

【巡回相談員派遣回数】 15回分

ウ 特別支援教育相談員の配置

【人数】 1名

② 外国につながる児童生徒への教育の推進 (2,811千円(前年度340千円))

ア 通訳者及び支援員の派遣

【派遣回数】 通訳者 60回分、支援員 30回分

イ 指導者研修の実施

【対象】 日本語指導学級担当者等

【新】ウ 日本語指導教育充実に資する拠点校の指定 (うち2,389千円)

【設置数】 日本語指導学級のある小学校1校

③ 小・中学校教育支援者の配置 (287,214千円(前年度251,132千円))

ア 教育補助員の配置

【配置人数】 80名(小学校 58名、中学校22名)

【拡】イ 学校教育支援員の配置 (うち104,071千円(前年度76,987千円))

【配置人数】 41名
(小学校) 29名←(前年度27名)
(中学校) 12名←(前年度8名)

(2) 多様なニーズに応じた教育に対する支援 (178,098千円(前年度169,005千円))

① 小・中学校の就学支援 (174,939千円(前年度166,847千円))

【内容】 就学援助、就学奨励

② 私立学校等への助成 (3,159千円(前年度2,158千円))

ア 賀茂高等学校定時制への補助金交付

【補助内容】 講演会の開催、部活動全国大会遠征等に要する経費

イ 近畿大学附属広島高等学校東広島校及び呉武田学園武田高等学校への補助金交付

【補助内容】 教材費、教育研究機器などの購入に要する経費

【新】ウ 賀茂北高等学校活性化事業への補助金交付 (うち1,000千円)

【補助内容】 地域主体による学習環境整備に要する経費の一部

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	3 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	② 特別なニーズに対応した教育の充実

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 特別支援学級に在籍する児童・生徒保護者の教育活動に対する肯定的回答の割合	(R1)	75	75	75	(R6)	%
(4)	()				()	
(9)	()				()	
(1)	()				()	
(4)	()				()	
(4)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 特別支援学級に在籍する児童・生徒保護者の教育活動に対する肯定的回答の割合	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の両方を作成している。	特別なニーズのある児童生徒の実態に応じた適切な指導及び支援。	・教育補助員を適正に配置し、研修を繰り返すことにより、児童生徒の実態に応じた指導・支援ができるであろう。	・教育補助員の適正な配置 ・特別支援教育に係る研修の実施及び訪問指導の実施
(4)				
(4)				
(1)				
(4)				
(4)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	特別なニーズへの支援事業 10・1・3	指導課		6,596	10,527	30.0%
2	小学校教育支援者配置事業 10・2・2	指導課		183,036	205,124	15.0%
3	中学校教育支援者配置事業 10・3・2	指導課		68,096	82,090	15.0%
4	小学校就学支援事業 10・2・2	学事課		88,518	92,917	17.0%
5	中学校就学支援事業 10・3・2	学事課		78,329	82,022	17.0%
6	私立学校等助成事業 10・1・3	教育総務課		2,158	3,159	6.0%
7	.					
8	.					
9	.					
10	.					
11	.					
12	.					
13	.					
14	.					
15	.					

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度	寄与度
5 施策に対する目的別事業群の寄与度評価		
決算時記載		

6 今後に向けての方針と分析

--	--

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 人づくり	施策	3 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践
施策の将来の目標像	すべての子どもたちが「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む教育を受けられ、青少年が将来に夢と希望をもち、主体性と創造性をもった人間として健やかに成長し、活動していくことができる安全・安心な社会環境が整っています。		

目的別事業群名	③ 地域と連携した青少年健全育成の環境づくり	主幹部局・所属	学校教育部 青少年育成課
連携部局・所属	生涯学習部 生涯学習課		
目的	児童生徒と学校関係者や地域住民がより深い信頼関係を築くための環境づくりの推進		
成果項目 (成果物)	心のサポーター・スクールソーシャルワーカーの派遣、適応指導教室		
成果指標 (成功基準)	不登校児童生徒数平成30年度対比割合(10%減少)		
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)
		当初予算額 一般財源	
	R2 年度	81,402 75,269	人件費総額
	R1 年度	68,076 63,391	人件費/総事業費

内容

1 地域と連携した青少年の健全育成の環境づくり

(1) 青少年の諸課題の未然防止と早期対応 (39,465千円(前年度30,453千円))

① 生徒指導の推進 (39,465千円(前年度30,453千円))

【拡】ア 心のサポーターの配置(うち18,812千円(前年度9,798千円))

【配置時間】

〈小学校〉 3,120時間→5,520時間
〈中学校〉 4,960時間→7,200時間

【拡】イ スペシャルサポートルームの整備(うち890千円(前年度0千円))

不登校及び不登校傾向児童生徒の登校を促すため、校内に安心して過ごすことのできる居場所を整備

【整備学校数】

〈小学校〉 0校→2校
〈中学校〉 2校→4校



スペシャルサポートルームの教室環境

【拡】ウ スクールソーシャルワーカーの派遣(うち6,105千円(前年度5,343千円))

【派遣人数・時間】 4人 1,250H → 5人 1,380H

エ 適応指導教室の運営

【運営体制】 指導員(西条、黒瀬、豊栄) 4人

(2)安全・安心に過ごせる児童生徒の居場所づくり(41,937千円(前年度37,623千円))

① 青少年の健全育成を支える環境づくり(41,937千円(前年度37,623千円))

ア 地域と学校の連携・協働の推進(うち8,865千円)

【拡】(ア) 放課後子供教室の実施(うち8,561千円(前年度6,963千円))

【実施場所】 22カ所→24カ所
【スタッフ数】 コーディネーター 24人
学習アドバイザー、安全管理員 150人
【活動回数】 各教室 25回/年



放課後子供教室での活動の様子

【新】(イ) 地域学校協働活動推進員の配置(うち304千円)

地域学校協働活動推進員による地域学校協働活動の総合化を図り、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進

【配置校区・配置人数】

〈小学校〉 風早小学校区 1人 〈中学校〉 福富中学校区 1人 〈小中学校〉 高美が丘小中学校区 1人



地域学校協働活動(学習支援・体験活動・地域による学校支援)の様子

イ 地域による登下校の見守り活動等

(ア) 学校へのスクールガードリーダーの派遣

【派遣人数】 7人

【派遣回数】 〈安全対策に関する指導助言〉 7人×12回 〈犯罪防止教室〉 51校×1回

(イ) 青少年指導員による地域の巡視・声かけ活動

【指導員数】 8人

【活動時間】 6時間×40週 /人

(ウ) 学校安全ボランティアによる登下校の見守り活動

【学校安全ボランティア登録者数】 14,361人

ウ 児童青少年総合相談室での教育相談等

【相談体制】

教育相談員 1人/日(週6日)、臨床心理士 1人/日(週3日)、児童厚生員 1人/日(週5日)

エ 児童青少年センターの管理運営

【運営体制】

児童青少年センター :センター長 1人、活動推進員 1人
第2児童青少年センター:センター長(1人)、活動推進員 2人

オ 青少年健全育成活動団体への補助金交付

【補助金交付団体】

青少年育成東広島市民会議及び”社会を明るくする運動”東広島市推進委員会



青少年の健全育成活動を実施する団体による活動の様子

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	3 高い教育力と伝統を活かした学校教育の実践	③ 地域と連携した青少年健全育成の環境づくり

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 市立小・中学校における不登校児童生徒数	222 (R1) マイナス指標設定	222	214	210	200 (R6)	人
(4)	()				()	
(9)	()				()	
(1)	()				()	
(4)	()				()	
(ハ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 市立小・中学校における不登校児童生徒数	・不登校児童生徒は9月末で昨年度110人、今年度114人	・不登校に至る理由や児童生徒・保護者の価値観が多様化	・学校に教室以外の居場所づくり、児童生徒や保護者の個に応じた支援の充実が登校に繋がる。	・心のサポーターやスクールソーシャルワーカーの派遣 ・スペシャルサポートルームの設置
(4)				
(9)				
(1)				
(4)				
(ハ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	生徒指導推進事業 10・1・3	青少年育成課		30,453	39,465	50.0%
2	青少年健全育成事業 10・5・1	青少年育成課		37,623	41,937	50.0%
3	. .					
4	. .					
5	. .					
6	. .					
7	. .					
8	. .					
9	. .					
10	. .					
11	. .					
12	. .					
13	. .					
14	. .					
15	. .					

4 目的別事業群の進捗度評価

進捗度	寄与度
<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-color: #e0e0e0;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-color: #e0e0e0;"></div>
決算時記載	

6 今後に向けての方針と分析

--	--

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 づくり	施策	4 新たな価値を創造する人材の育成
施策の将来の目標像	多くの子どもたちが最先端技術に関心を持ち、行政と地域の大学や試験研究機関、企業等が連携し、質の高い学びの機会が提供されています。		

目的別事業群名	① 理科系教育分野等の教育内容の充実	主幹部局・所属	学校教育部 指導課
連携部局・所属			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・創造性あふれる人材の育成 ・本市教育への地域資源である大学等の活用 		
成果項目 (成果物)	<ul style="list-style-type: none"> ・第五次学校教育レベルアッププラン ・大学・企業と連携した最先端の研究体験 		
成果指標 (成功基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・科学の芽成講座参加児童・生徒の学習満足率(90%) ・理科観察実験アシスタント配置校における理科授業が好きな児童の割合(95%) 		
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)
	当初予算額	決算額	
	一般財源	一般財源	人件費総額
	R2 年度	16,310 15,934	
R1 年度	5,551 5,259	人件費/総事業費	

内容

1 理科系教育分野等の教育内容の充実

(1)子どもたちの理数系教育分野への興味・関心醸成(16,310千円(前年度5,551千円))

子どもたちの理数系教育分野への興味・関心を喚起するとともに、特に科学に興味のある児童・生徒の理数能力を高めるため、大学、研究機関と連携し、教育内容を充実させる取組

①児童生徒の科学の芽成(8,577千円(前年度4,673千円))

ア 科学の芽成講座の開催

- 【実施時期】 令和2年9月～令和3年2月
- 【実施場所】 市内各小中学校
- 【講師】 広島大学・近畿大学工学部・広島国際大学の教員、市内企業の技術者



化学分野の講座



天文学分野の講座



生物学分野の講座

【新】イ プログラミング体験器具の配備(うち5,055千円)

- 【対象校】 市内全小学校
- 【配備数】 204台

【拡】②理科観察実験アシスタントの配置(1,130千円(前年度878千円))

大学院生等12人(前年度9人)を市内小学校へ派遣
【配置時期】 9月～2月



実験器具の整備



掲示物による興味喚起

【新】③めざせ！未来のノーベル賞 科学の芽成長プロジェクト実施(6,603千円)

ア 年間を通じて科学研究を実施する「めざせ！未来のノーベル賞プロジェクトチーム」の立ち上げ(上級コース)

【対象者】 市立小の高学年児童・中学校生徒希望者 定員20名

・近畿大学の講師による講演の実施

- 【開催時期】 6月、10月、11月
- 【会場】 近畿大学工学部
- 【テーマ】 科学技術に関する講演

・チーム研究の実施

- 【実施時期】 6月～3月
- 【内容】 チーム研究の実施及び研究発表

・「1日まるごとサイエンス」の実施

- 【開催時期】 8月
- 【内容】 科学の甲子園ジュニア参加に向けたチームでの科学工作や課題解決を行い発表

・科学の甲子園ジュニアへの参加

- 【開催時期】 8月
- 【会場】 広島県立教育センター

イ 科学に対する興味・関心を高める講座の実施(中級コース)

【対象者】 市立小の中・高学年児童 定員40名×4回(160名程度)

・おもしろ科学実験講座

- 【開催時期】 9月、10月
- 【テーマ】 科学に対する興味・関心を高める内容

・東広島サイエンスツアー

- 【開催時期】 夏休み期間中
- 【内容】 東広島市の研究施設について見学
- 【見学場所】 中国電力、酒類研究所、サタケ 等(関係機関と調整)

・チーム研究の発表大会聴講

- 【開催時期】 3月
- 【内容】 チーム研究の研究発表における聴講

ウ 親子おもしろ科学実験講座(初級コース)

【対象者】 市立小の低学年児童親子 定員20組程度×2回(80名程度)

・親子おもしろ科学実験講座

- 【開催時期】 10月、1月(2回実施)
- 【内容】 親子で楽しめる科学実験講座

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	4 新たな価値を創造する人材の育成	① 理科系教育分野等の教育内容の充実

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 科学の芽育成講座参加児童・生徒の学習満足度	(R1) 0	90	90	90	(R6) 90	%
(4) 配置校における理科授業が好きな児童の割合	(R1) 92	92	95	95	(R6) 95	%
(9)	()				()	
(1)	()				()	
(4)	()				()	
(6)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 科学の芽育成講座参加児童・生徒の学習満足度	・児童・生徒の自然科学、科学技術等に対する興味喚起に結びつくような事業がない。	・価値を創造する人材を育てるためには、自然科学、科学技術等に興味・関心をもつきっかけが必要。	・科学に興味をもつ講座を小中学校で開講すれば、自然科学に対する興味喚起につながるであろう。	・大学や企業との連携による、理数教育に関する出前講座実施 ・科学の芽育成講座の開催
(4) 配置校における理科授業が好きな児童の割合	・配置校における理科の授業が好きな児童の割合は92%	・理科の実験や観察の準備、片付け及び安全面については、教員の負担が大きい。	・理科アシスタントを配置すれば、実験・観察の充実を図り、理科好きの児童を育成することができるであろう。	・理科の専門性を有する大学院生等の派遣による、理科授業サポート ・理科観察実験アシスタント派遣
(9)				
(1)				
(4)				
(6)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	科学の芽育成事業 10・1・3	指導課		5,551	16,310	100.0%
2	. .					
3	. .					
4	. .					
5	. .					
6	. .					
7	. .					
8	. .					
9	. .					
10	. .					
11	. .					
12	. .					
13	. .					
14	. .					
15	. .					

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度	寄与度
5 施策	<p>決算時記載</p>	
6 今後	<p>今後に向けての方針と分析</p>	

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 づくり	施策	4 新たな価値を創造する人材の育成
施策の将来の目標像	多くの子どもたちが最先端技術に関心を持ち、行政と地域の大学や試験研究機関、企業等が連携し、質の高い学びの機会が提供されています。		

目的別事業群名	② 子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実	主幹部局・所属	生涯学習部 生涯学習課	
連携部局・所属	生涯学習部 文化課			
目的	・創造性の豊かな子どもたちの育成を図るため、科学技術や文化芸術に関する知識の普及や啓発を行う場の設置を検討。 ・市内の大学や試験研究機関等と連携・協働し、その知見を活用した講座を開催。			
成果項目（成果物）	・「ひがしひろしまスペースクラブ」事業 ・出前美術館及び出前博物館等事業			
成果指標（成功基準）	・「ひがしひろしまスペースクラブ」参加者の活動満足度（80%） ・出前美術館、出前博物館及び芸術体験事業の活動満足度（87%）			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
		当初予算額		決算額
		一般財源	一般財源	
	R2 年度	2,764		人件費総額
	2,764			
R1 年度	345		人件費/総事業費	
	345			

内容

1 子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実

(1) 市内大学等と連携・協働した講座の開催（135千円(前年度130千円)

市内の大学や試験研究機関等と連携・協働し、その知見を活用して子どもたちの豊かな学びにつながる講座を提供する。

① ひがしひろしまスペースクラブの実施（135千円(前年度130千円)）

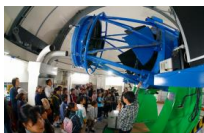
宇宙や天体について科学的な興味や関心を高める場を提供する。
 対象：小学生
 予定回数：8回
 延べ人数：240人(見込)
 場所：東広島天文台ほか
 (H30年度：クラブ員32人、8回開催)



ひがしひろしまスペースクラブ講義

② 東広島天文台の観望会開催

広島大学と共催し、東広島天文台で特別観望会を開催する。
 対象：市民
 回数：4回程度
 延べ人数：320人(見込)
 (R元年度特別観望会開催4回(8/30、31、11/15、16)、延べ参加者数570人)



東広島天文台

(2) 創造性豊かな子どもの育成につながる学びの充実（2,629千円(前年度215千円)

① 文化芸術体験事業（2,629千円(前年度215千円)）

「東広島市文化芸術振興プログラム」に基づき、出前美術館、出前博物館事業等の鑑賞教育を実施する。美術への興味関心を広げ、作品を視る力やコミュニケーション力を高める。

ア 出前美術館（うち50千円）

子どもたちを対象に、鑑賞教育プログラムを実施する。
 内容：美術館所蔵作品図版等を活用した授業
 回数：3回程度
 場所：市内小中学校



出前美術館
 学芸員による
 アートカードを活用した
 「版画カルタ」の授業

イ 出前博物館（うち61千円）

出土文化財や民具等を学校に持参し、間近で見て、触ってその質感を体感することにより、地元の歴史や文化・文化財への興味や関心を醸成する。
 対象：小学生・中学生
 回数：6校程度
 場所：市内小学校及び市内歴史民俗資料館、文化財



出前博物館

左：県内でも数多くの遺跡を有している東広島市の、数々の貴重な出土品を学校に持参し、見るだけでなく、直に触れる機会を提供する。
 右：地域の歴史や民俗を示す資料を収蔵・公開するための歴史民俗資料館の民具などに触れ、郷土の歴史や文化財への興味・関心を高める。

【新】ウ 芸術体験事業(学校まるごと美術館等) (うち2,518千円)

子どもたちが美術館に来館する。芸術に直に触れる機会を設ける。
 対象：市内小学4年生
 場所：東広島市立美術館
 ※小学校から美術館までの移動は借り上げバスを用いる。

小中学校で文化・芸術の体験活動を行う。文化芸術に直に触れる機会を設ける。
 対象：小中学生
 場所：市内小中学校
 目標回数：17回



所蔵作品展
 「美術のキーワード入門編」
 :具象と抽象」
 学芸員による
 小学生を対象とした
 ギャラリートーク



現代絵本作家原画展「ひらけ！わたしの絵本ワールド！」



子どもを対象とした創作活動の機会を設ける
 対象：幼児、小学生
 回数：1回
 人数：50人程度
 場所：東広島市立美術館



「ポスターでたどる現代絵本作家原画展のあゆみ」関連企画
 幼児～小学生対象ワークショップ
 「すてきな★ちぎり絵をつくらう！」

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	4 新たな価値を創造する人材の育成	② 子どもの興味・関心及び創造性を伸ばす教育の充実

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 「ひがしひろしまスペースクラブ」参加者の活動満足度	(R2)	—	70	75	80 (R5)	%
(4) 出前美術館、出前博物館及び芸術体験事業満足度	(R1)	85	86	87	87 (R3)	%
(9)	()				()	
(エ)	()				()	
(オ)	()				()	
(カ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

上段:目標値
中段:実績値
下段:達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 「ひがしひろしまスペースクラブ」参加者の活動満足度	・講座の企画に係る時間が少なく、前年同様の内容となることが多い。	・年間計画を立てる際、学生講師との打合せ不足が原因	・講座の内容について、学生講師と企画会議で協議することで、より魅力のある講座を企画できるのではないかと。	・企画会議を4、5月の間に3回程度実施する。
(4) 出前美術館、出前博物館及び芸術体験事業満足度	・申し込む学校(又は教員)に偏りがあることから、教員への周知が行きわたっていない可能性がある。	・年度初めの案内では、学校行事やカリキュラムの進展から出前美術館等を入れにくい。	・開催案内が学校内で十分に理解・周知されていない可能性がある。	・各学校に、前年度から早期の案内を行う。また、教員の各研究部会への案内を行う。
(9)				
(エ)				
(オ)				
(カ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	生涯学習活動推進事業(一部) 10・5・2	生涯学習課		130	135	40.0%
2	文化芸術体験事業 10・5・2	文化課		215	2,629	60.0%
3	. .					
4	. .					
5	. .					
6	. .					
7	. .					
8	. .					
9	. .					
10	. .					
11	. .					
12	. .					
13	. .					
14	. .					
15	. .					

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度
(7) 「ひがしひろしまスペースクラブ」参加者の活動満足度	
(4) 出前美術館、出前博物館及び芸術体験事業満足度	
(9)	
(エ)	
(オ)	
(カ)	

決算時記載

6 今後に向けての方針と分析

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 人づくり	施策	5 知的資源と国際性を活かした人づくり
施策の将来の目標像	大学立地などの地域の特性を活かし、その知見を活かした教育が提供され、国際感覚を備え、高度な専門性を身に付けた人材が数多く育っています。		

目的別事業群名	① 大学・企業等との連携による学びの充実と国際感覚の醸成	主幹部局・所属	学校教育部 指導課	
連携部局・所属	政策企画部	政策推進監		
	生涯学習部	生涯学習課		
	生涯学習部	文化課		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等の知見を活かした教育による人材の育成 ・大学(学生を含む)・研究機関・企業と地域・市民の交流、連携の促進 ・異なる考え方や文化への寛容性、国際感覚を備えた人材の育成 			
成果項目(成果物)	<ul style="list-style-type: none"> ・第5次学校教育レベルアッププラン ・大学(学生を含む)・研究機関・国際協力機関・企業と地域・市民の交流及び連携活動 ・周知用チラシ、講座等 			
成果指標(成功基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生キャンパス体験学習に参加した生徒の学習満足度(90%) ・国際協力研修事業協力者数(230人) ・大学及び試験研究機関等との連携による主催講座等の実施回数(90回) 			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
		当初予算額		決算額
		一般財源	一般財源	
	R2 年度	5,241		人件費総額
	5,216			
R1 年度	4,235		人件費/総事業費	
	4,221			

内容

1 大学・企業等との連携による学びの充実

(1)大学等のもつ研究成果や知見を活かす取組 (2,440千円(前年度2,862千円))

①未来創造及びキャリアの形成 (2,440千円(前年度2,862千円))

ア 中学生キャンパス体験学習

【実施期間】 7月～12月
 【対象】 市立中学校生徒
 【実施場所】 広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学



広島大学の博物館で展示物の説明を受けている様子



近畿大学で講義体験（ペーパークラフト）

イ 中学生職場体験学習

【対象】 市立中学校第2学年生徒
 【人数】 1,600人

(2)大学や試験研究機関等との連携・協働による主催講座の実施 (1,378千円(前年度1,349千円))

市内の大学や試験研究機関等と地域・市民の交流や連携を促進するとともに、市民の豊かな学びにつながる講座を提供

①大学連携の推進 (1,273千円(前年度1,261千円))

ア 「東広島学」の開催

近畿大学工学部と連携し、東広島に関する講座を実施
 【対象】 市民、学生
 【場所】 近畿大学工学部ほか
 【予定回数】 15回
 【延べ人数】 1,200人(見込)



東広島学（安芸津ウォーキング）

イ 「ひと・まち発見講座」の開催

広島国際大学と連携し、ボランティア活動への関心を高める講座を実施
 【対象】 市民、学生
 【場所】 広島国際大学ほか
 【予定回数】 8回
 【延べ人数】 720人(見込)



ひと・まち発見講座

ウ 「サマーカレッジ」の開催

広島国際大学と連携し、福祉や健康などの講義を実施
 【対象】 市民
 【場所】 広島国際大学
 【予定回数】 2回
 【延べ人数】 100人(見込)



サマーカレッジ

エ 「広大マスターズ市民講座」の開催

広島大学マスターズと連携し、生涯学習の機会を提供
 【対象】 市民
 【場所】 東広島芸術文化ホールくららほか
 【予定回数】 20回
 【延べ人数】 350人(見込)



広島大学マスターズ（スケッチ講座）

オ 「生涯学習サテライトキャンパス講座」の開催

市内大学の教授等が講師となり、専門的な内容を学ぶことができる講座を実施
 【対象】 市民
 【場所】 生涯学習センター及び地域センター
 【予定回数】 18回
 【延べ人数】 360人(見込)

②歴史の体験 (105千円(前年度88千円))

ア 「親と子の体験歴史村」講座の実施

【目的】 埋蔵文化財に対する興味と関心を高める
 埋蔵文化財に対する保護意識の涵養
 【内容】 勾玉づくりや火おこし等、親子で古代の人々の生活体験
 広島大学構内の遺跡と広島大学総合博物館の見学
 【対象】 市内小学校4～6年生とその保護者
 【場所】 広島大学構内、広島大学総合博物館
 【回数】 1回(見込)
 【人数】 親子25組、50人(見込)



親と子の体験歴史村での活動の様子

2 国際感覚の醸成

(1) JICA研修事業の研修員と市民等との交流を促進する取組 (35千円(前年度24千円))

JICA中国が実施する研修コースに協力し、市民等が幅広く研修員と交流する機会を設けることで、国際協力への意識醸成や国際性豊かな人材育成を推進

① 国際協力研修事業への協力による国際理解の促進 (35千円(前年度24千円))

ア JICA「排水処理技術コース」への協力と地域交流の促進 約2か月間

- ・ JICA研修員と児童・生徒の交流 (学校訪問)
- ・ JICA研修員と市民との交流 (ゴミ拾い活動、酒まつり参加等)
- ・ 研修講師の派遣や交流 (講義、JICA研修員による発表会や意見交換会等)

イ JICA中国が実施する各種研修コースへ協力 5コース程度/年

(2) 外国籍の方等と積極的にコミュニケーションを図る機会の創出 (1,388千円(前年度0千円))

学校における国際交流の機会を創出し、異なる考え方や文化への寛容性、国際感覚を備えた人材の育成を図る取組み

① 地域の外国人や留学生による出前授業実施 (1,388千円(前年度0千円))

国際交流を目的とした出前授業を実施

【ゲストティーチャー】 地域の外国籍の方や留学生

【年間派遣人数】 80名

【出前授業の対象】 市立小中学校

外国語活動充実を目的とした出前授業を実施

【外国語活動協力者】 英語の堪能な地域の外国籍の方

【年間対応時間数】 800時間

【対象】 市立小学校



地域の外国籍の方等をゲストティーチャーとして招聘した国際交流の様子

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱		施策	目的別事業群名
3	人づくり	5 知的資源と国際性を活かした人づくり	① 大学・企業等との連携による学びの充実と国際感覚の醸成

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 各事業に参加した児童生徒の満足度	(R1) 0	90	90	90	(R6) 90	%
(4) 国際協力研修事業協力者数	(H30) 178	195	205	210	(R6) 230	人
(9) 大学及び試験研究機関等との連携による主催講座等の実施回数	(R1) 54	54	63	70	(R6) 70	回
(イ)	()				()	
(オ)	()				()	
(カ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 各事業に参加した児童生徒の満足度	・体験学習に参加した児童生徒の満足度は高い。	・実施後のアンケートを分析し、満足度が高まるような手立てを講じる必要がある。	・事業の内容が工夫改善し、充実すれば、参加者の満足度は高まるだろう。	・大学や企業、地域との連携を密にし、事業内容を充実
(4) 国際協力研修事業協力者数	・H30年度の国際協力研修事業協力者数は178人	・協力者が一部に限られており、国際協力の意識を育む機会を十分に生かせていない。	・幅広い研修の受け入れや交流を図ることで、国際協力への意識醸成が進むのではないかと。	・JICAが実施する国際協力研修事業への協力
(9) 大学及び試験研究機関等との連携による主催講座等の実施回数	・市内大学や関係機関と連携し、講座の開催時期や回数、内容等を決めている。	・大学等との協議により開催を決定しており、例年同じような時期と回数となっている。	・主催講座の内容、場所や開催時期等を協議すれば、講座回数が増やせるのではないかと。	・主催講座ごとに内容、場所等を企画・提案を行い、大学等と開催時期や回数を協議していく。
(イ)				
(オ)				
(カ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	未来創造キャリア形成事業 10・1・3	指導課		2,862	3,828	45.0%
2	大学連携事業 10・5・2	生涯学習課		1,261	1,273	25.0%
3	出土文化財管理活用事業(一部) 10・5・5	文化課		88	105	25.0%
4	国際交流推進事業(一部) 2・1・7	政策推進監		24	35	5.0%
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度	寄与度
5 施策に対する目的別事業群の寄与度評価		
6 今後に向けての方針と分析		

決算時記載

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 人づくり	施策	6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり
施策の将来の目標像	市民が主体となった学習活動が活発になり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境が形成されています。また、東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化されています。		

目的別事業群名	① 生涯を通じて地域で学び、活躍できる環境の整備	主幹部局・所属	生涯学習部 生涯学習課	
連携部局・所属				
目的	市民がいつでも「学びたい」と思うものを学ぶことができる環境を整備する。			
成果項目（成果物）	学習メニューブック、生涯学習まちづくり出前講座パンフレット、生涯学習パスポート（まなぶちゃんノート、ジュニアパスポート）、各種講座募集チラシ、ホームページ、生涯学習施設長期修繕計画、図書館利用案内、ブックリスト			
成果指標（成功基準）	地域センター・生涯学習センター等における主催講座開催回数（5,720回） 図書館来館者数（602,000人）			
コスト情報	目的別事業群事業費（千円）		R2 年度人件費（千円）	
		当初予算額		決算額
		一般財源		一般財源
	R2 年度	669,022		567,009
		564,225		
	R1 年度	547,595		
			人件費総額	
			人件費/総事業費	

内容

1 生涯を通じて地域で学び、活躍できる環境の整備

(1) 生涯学習環境の整備（323,243千円（前年度241,345千円））

多様に変化する学習ニーズや少子高齢化の進展など、今日的課題に対応するための学習機会を提供する。

① 生涯学習活動の推進（75,955千円（前年度68,358千円））

ア 人権に関する学習機会の充実（うち579千円）

(ア) 人権講座の開催

対象：市民
場所：生涯学習センター及び地域センター等
予定回数：40回

(イ) 人権研修会の参加及び開催

対象：地域センター職員等
内容：広島県人権教育指導者養成研修会や市が実施する研修への参加
予定回数：4回

イ 家庭教育支援講座の開催（うち949千円）

(ア) ブックレビュー推進講座等の開催

目的：乳児への言葉かけの大切さを伝え、言葉育てを支援する。
対象：保護者及び妊産婦・配偶者、ブックレビューを支援したい人
予定回数：70回
場所：地域すくすくサポート等

※ブックレビュー：おはなし会や絵本を紹介するブックトークなど、乳児と本・言葉とを結ぶための様々な活動の総称

(イ) 「親の力」を学び合う学習プログラムの開催と、そのファシリテーターの養成

目的：あらゆる人がそれぞれの立場から「子育て力」を身につける。
対象：市民
内容：「自ら気づき学ぶことができる力」を高めるとともに、「話のきっかけ」、「対話のツール」として開発された参加体験型学習プログラムを開催する。
予定回数：40回
場所：市内各会場



ブックレビュー推進講座



「親の力」を学び合う学習プログラム

【新】ウ 老いの教育（うち1,001千円）

高齢者にもつわる様々な社会問題に対応するため、老いを生きるための知識を体系的に学ぶ「老いの教育」を開催する。

対象：高齢者
予定回数：10回×2
場所：東広島芸術文化ホールくらら

エ 講座等の開催

【新】(ア) 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」支援事業で作成した講座の開催（うち390千円）

目的：学習プログラムをコーディネートできる人材の育成を図る。

対象：市民
予定回数：45回
場所：地域センター及び生涯学習（支援）センター等

(イ) 主催講座の開催（うち20,806千円）

対象：市民
場所：地域センター及び生涯学習（支援）センター等

(ウ) 市民の希望より市職員等が講師となり、地域に出向いて行う出前講座の開催（うち132千円）

オ 生涯学習推進員等の配置とセンター職員等研修（うち42,514千円）

(ア) 生涯学習推進員等の配置

目的：本市の生涯学習事業の企画立案及び実施
内訳：社会教育指導員（2人）、生涯学習推進員（12人）、生涯学習相談員（1人）
志和生涯学習センター長（1人）、三ツ城コミュニティハウス副所長（1人）

(イ) 研修会の参加及び開催

対象：地域センター職員等
内容：県や市が実施する研修
予定回数：14回

カ 生涯学習情報の提供と成果発表・活用及びきっかけづくり（うち8,371千円）

・東広島市生涯学習フェスティバルを開催し、成果発表などの場を提供する。
・学習メニューブックを発行し、生涯学習情報を提供する。
・生涯学習パスポートに活動歴等を記録して学習意欲の向上等につなげる、目標達成者を表彰する。



生涯学習フェスティバル

キ 負担金ほか（うち1,213千円）

東広島市女性連合会及び東広島市PTA連合会等の活動に対して補助金を交付する。

② 生涯学習施設の管理運営（247,288千円（前年度172,987千円））

ア 施設の管理運営（うち239,288千円）

対象：市民文化センター（指定管理）、志和生涯学習センター、黒瀬生涯学習センター
豊栄生涯学習センター、安芸津生涯学習センター
三ツ城コミュニティハウス、西志和コミュニティハウス、創作村、視聴覚ライブラリー、天文台広場



市民文化センター



黒瀬生涯学習センター



三ツ城コミュニティハウス
（三ツ城小学校内）

【新】イ 施設長期修繕計画の策定（うち8,000千円）

冷暖房機器等は耐用年数を超えると部分的補修では改善できず、事後保全では施設の利用停止が長期間になる場合がある。また、複数施設の機器が同時期に故障する可能性もある。利用者の影響を最小限とするためには計画的に保全管理を行う必要がある。

目的：生涯学習施設の計画的な保全管理を行う。
対象：中央図書館、市民文化センター、黒瀬生涯学習センター、安芸津生涯学習センター
出土文化財管理センター、東広島芸術文化ホール、東広島市立美術館

効果：生涯学習部所管施設全体の修繕費用の年度ごとの平準化が図れる。

(2) 図書館機能の充実 (345,779千円(前年度322,880千円))

① 図書館の管理運営 (345,779千円(前年度322,880千円))

ア 指定管理による図書館の管理運営 (うち301,779千円)

目的: 図書館サービス計画及び子どもの読書活動推進計画に基づく市立図書館7館の管理運営
対象: 中央図書館、サンスクエア児童青少年図書館、黒瀬図書館、福富図書館、豊栄図書館
河内こども図書館、安芸津図書館



レファレンスカウンター



かがくのおはなし会



特集コーナー

【新】イ ICTを活用した図書館サービスの提供 (うち44,000千円)

内容: 図書館所蔵資料約75万点にICタグを付与する(期間は令和2年度から令和3年度)

効果: 利用者が多い館等に自動貸出返却機等を設置する。

- ・窓口業務・蔵書点検作業の軽減
- ・プライバシーの保護



自動貸出機:
R4年度からの運用開始を目指す。

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり	① 生涯を通じて地域で学び、活躍できる環境の整備

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 地域センター・生涯学習センター等における主催講座開催回数	5,574 (H30)	5,600	5,630	5,660	5,720 (R5)	回
(4) 図書館来館者数	557,780 (H30)	567,000	575,000	584,000	602,000 (R5)	人
(9)	()				()	
(エ)	()				()	
(オ)	()				()	
(カ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 地域センター・生涯学習センター等における主催講座開催回数	・地域課題に対応した新たな主催講座の開催が少ない。	・新たな主催講座が少なく、既存の内容の主催講座を続けているところもある。	・主催講座終了後には自主サークルに移行するように促すことで、地域課題に対応する新たな講座の開催を行えるのではないか。	・時代に応じた主催講座を開発し提供するとともに、多様な手段を用いて学習情報を提供する。
(4) 図書館来館者数	・魅力ある図書館機能が認知されていない。	・図書館活用のPR不足。 ・所蔵資料、利用条件、利用環境を充実させ、読書促進、情報活用力向上に取り組み必要がある。	・市民の多様な学習ニーズに応える資料、設備を整え、読書推進事業、情報活用向上事業を展開することで、図書館を活用する人が増える。	・幅広い資料を収集・整理し、ICTを活用したサービスを提供するとともに、つながりを深める場としての機能の充実を図る。
(9)				
(エ)				
(オ)				
(カ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	生涯学習活動推進事業(一部) 10・5・2	生涯学習課		68,358	75,955	35.0%
2	生涯学習施設管理運営事業 10・5・2	生涯学習課		172,987	247,288	30.0%
3	図書館管理運営事業 10・5・4	生涯学習課		322,880	345,779	35.0%
4	・					
5	・					
6	・					
7	・					
8	・					
9	・					
10	・					
11	・					
12	・					
13	・					
14	・					
15	・					

4 目的別事業群の進捗度評価

	進捗度	寄与度
5 施策に対する目的別事業群の寄与度評価	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; background-color: #e0e0e0; position: relative;"> 決算時記載 </div>	
6 今後に向けての方針と分析		

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 づくり	施策	6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり	
施策の将来の目標像	市民が主体となった学習活動が活発となり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境が形成されています。また、東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化されています。			
目的別事業群名	② 芸術文化活動の活性化と歴史・文化の伝承	主幹部局・所属	生涯学習部 文化課	
連携部局・所属				
目的	国際学術研究都市としての特徴や、三ツ城古墳などの文化財からなる安芸国の中心地としての歴史及び吟醸酒発祥の地である日本酒文化等の「東広島らしい文化芸術」のブランド形成を図るとともに、そうしたブランド価値を活かし、まちを活性化する。			
成果項目（成果物）	文化施設の利用者数 美術館の満足度 くらの満足度			
成果指標（成功基準）	文化施設の利用者数を令和元年度の1.1倍にする。 満足度を80%以上とする。			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
		当初予算額		決算額
		一般財源	一般財源	
	R2 年度	748,577		人件費総額
	691,111			
R1 年度	1,811,270		人件費/総事業費	
	417,683			

内容

1 芸術文化活動の活性化と歴史・文化の伝承

(1) 文化財の保護と活用の取組み (28,381千円(前年度67,575千円))

三ツ城古墳、安芸国分寺、鏡山城など時代を代表する拠点的な遺跡が存在し、史跡に指定されている。生き物は、国宝に該当する特別天然記念物オオサンショウウオをはじめ、貴重な生物が生息する。近代は吟醸酒発祥の地として、日本の20世紀遺産20選に選定された西条の酒造施設群などの文化遺産がある。現在、市内にある指定・登録文化財は193件、その他未指定のものも含め、多くの貴重な文化財がある。近年、都市化やライフスタイルの変化に伴い、貴重な文化財やその維持管理者・後継者の消滅が危惧されるため、文化財の保存と活用の取組みを行う必要がある。

① 指定文化財等の管理活用 (21,096千円(前年度19,877千円))

- ア 文化遺産活用事業
20世紀遺産20選・伝統的建造物群にかかる講演会の開催 市民対象(200名) 年1回
- イ 歴史文化基本構想 活用計画策定
策定委員会及びワークショップの開催 年4回程度
- ウ 指定文化財等の環境整備
文化財所有者による環境整備への謝金、市所有文化財の草刈等の委託
- エ 市所有文化財の公開管理
市所有指定文化財や文化財施設(歴史資料館や歴史公園・歴史広場)の公開と維持管理
- オ 教育普及事業
リーフレットの新規作成や増刷。文化財防火デー防火訓練の実施。講師派遣。
- カ 文化財修理事業等への助成
国指定文化財管理2件、市指定文化財保存修理1件



西条酒蔵通り



市指定文化財 並瀬寺本堂

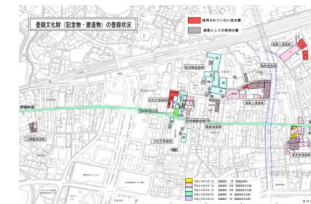


特別天然記念物 オオサンショウウオ

② 文化財の調査と保護 (3,973千円(前年度8,919千円))

市内に所在する各種の文化財について基礎調査を行う。
重要なものは詳細調査を行い、指定・登録等に取り組み、文化財の適切な保護を図る。

- ア 文化財保護審議会の開催
文化財指定等に係る審議会の開催 年3回 委員15名
- イ 伝統的建造物群保存対策調査
3年次目 委員会の開催(答申)
- ウ 文化財基礎調査の実施
建造物や動植物の調査、調査報告書の作成



③ 文化財施設等の整備 (3,312千円(前年度38,779千円))

文化財施設等(説明板、案内標識、市所有指定文化財など)の新設や修繕を行う。
歴史民俗資料館や文化財収蔵庫などの施設集約に取り組む。



八本松歴史民俗資料館



三永歴史民俗資料館

- ア 文化財施設等の修繕・新設
(7) 説明板等の新設や修繕
新設:説明板・案内標識各3基(計6基)、 修繕:説明板・案内標識各4基(計8基)
- (1) 指定文化財の修繕
国重文旧木原家住宅外壁修繕 漆喰壁面の修繕80㎡

(2) 埋蔵文化財の調査と出土文化財の保存と活用の取組み (28,540千円(前年度30,777千円))

宅地造成・道路建設等の各種開発事業に伴う埋蔵文化財について、事前協議・現地踏査・試掘調査及び指示・指導を行う。
必要に応じて、記録保存のための発掘調査を行い、出土した遺物及び図面・写真等を適切に収蔵・管理する。
広島大学を含む民間の調査組織(会社)が行う発掘調査に対して、指示・指導及び助言を行う。
開発業者や市民に対して埋蔵文化財に対する理解を深めてもらうため、出土文化財の保存と活用に取組む。

① 埋蔵文化財調査 (15,999千円(前年度19,766千円))

各種開発事業に伴う埋蔵文化財の相談・事前協議及び現地踏査・試掘調査
協議等件数:500~800件程度
対応 :100%(事前協議は、原則2週間以内に回答)



四日市遺跡の発掘調査

② 出土文化財管理活用 (12,541千円(前年度11,011千円))

出土文化財の公開活用及び埋蔵文化財に関する講座・報告会等の開催
出土文化財管理センターの入館者数:1,500人
常設展、企画展(秋季)、連続講座(10回)、発掘調査報告会等の開催



企画展の展示状況

(3) 芸術振興の取組み (242,298千円(前年度238,707千円))

芸術振興を「ふれる」「そだてる」「つくる」「つなげる」の理念により積極的に進めている。
くらを中核施設とし芸術振興が図られる中、市民文化団体においては構成員の高齢化が進む。
地域では、地域独自の芸術文化活動の振興を求める声がある中、若い世代の参画が課題である。
くらを中心とした芸術振興を図りつつ、地域の市民文化団体の活動支援が必要である。
各地の芸術文化施設との連携を進め、地域の芸術文化活動を支える人材の確保・育成を図る。

① 芸術文化振興 (242,298千円(前年度238,707千円))

ア 芸術文化ホールくらら運営管理事業 (うち231,515千円)

芸術文化活動の中核施設として、東広島芸術文化ホールの管理運営を指定管理者により行う。
芸術文化ホール年間来場者数: 335,000人
芸術文化ホール自主事業実施回数: 55回



東広島芸術文化ホール くらら



くらら 市民文化芸術活動サポートプログラム

【拡】イ けんみん文化祭事業 (うち930千円)

けんみん文化祭の運営を拡充して実施し、地域の芸術文化活動を支える人材の確保・育成を図る。

東広島地区フェスティバルの開催: 1回 (令和元年度 1,500人)

分野別フェスティバルの開催: 1回 (令和元年度 600人)



けんみん文化祭ひろしま'19 大正琴・新舞踊の祭典

【拡】ウ 地域芸術育成事業 (うち6,694千円)

地域の自主的な文化芸術活動の活性化を図るための施策を検討する。
地域の自主的な文化芸術活動を後援し、地域文化の創造を支援する。

実演芸術検討協議会の開催: 年2回

市内文化芸術活動後援: 年130件

エ 市美展運営事業 (うち3,159千円)

市民の造形芸術活動の発表の場を設け、文化芸術活動を促進する。

市美展の開催: 年1回

応募総数: 180作品

(4) 美術館活動の取組みと新美術館の整備 (449,358千円(前年度1,474,211千円))

優れた企画運営とコレクションの収集を行い、市民に対して美術鑑賞の機会を設ける。
新美術館は、「育成・創造型美術館」を目指しており、地域文化の育成や地域芸術の創造発信も取り組む。

① 新美術館管理運営 (177,284千円(前年度46,233千円))

【新】ア 新美術館オープニング事業 (うち68,697千円)

(ア) オープニング式典事業

開館に際し、オープニングセレモニーを実施する。

開催日程: 令和2年11月3日(予定)

開催場所: 新美術館1階ロビー

出席予定人数: 120人

その他: 様々な媒体を活用し、広報活動を行う。

(イ) 開館記念特別巡回展事業

開館後、「開館記念特別展」を開催し、優れた文化や芸術環境にふれる機会を創出する。

展覧会名: 生誕160年記念 グランマ・モーゼス展
素敵な100年人生

会期: 令和3年2月16日～4月6日

概要: アメリカの国民的画家グランマ・モーゼスの
生誕160年を記念して開催する。

(ウ) 開館記念作品収集事業

開館を記念して特別に作品を購入する。

【新】イ 新美術館運営事業 (うち88,502千円)

(ア) 開館記念特別所蔵作品展事業

「所蔵作品展」を開催し、優れた文化や芸術環境にふれる機会を創出する。

展覧会名: コレクション展(仮)

会期: 令和2年11月3日～12月27日(予定)

概要: 40年にも及ぶ東広島市立美術館の
コレクションを展示する。

(イ) 地域芸術文化育成事業

アートギャラリーの貸館受付を開始する。

受付開始日: 令和2年4月1日から(予定)

利用予定日: 令和3年4月1日から(予定)

(ウ) 個性豊かな地域芸術創造発信事業

開館以降、アートスペースで、アカデミック講座や
ワークショップを実施する。

アカデミック講座: 3回

ワークショップ: 3回

(エ) 維持管理事業

指定管理者により、新美術館の維持管理と円滑な運営を行う。

ウ 所蔵作品収集事業 (うち20,085千円)

所蔵作品の収集(購入、寄贈・寄託)とその調査研究を充実する。
開館を記念して特別に作品を購入する。

② 現美術館管理運営 (4,301千円(前年度15,124千円))

所蔵作品の保管等のため維持管理を行う。
所蔵作品移送後の閉館に伴う諸手続きを行う。

③ 新美術館建設 (267,773千円(前年度1,412,905千円))

展示用等の備品の購入及び所蔵作品の移送等を行う。
移送予定作品数: 833点



新東広島市立美術館



開館記念特別企画展

グランマ・モーゼス展「素敵な100年人生」
モダン・アート・ギャラリー・「グリンマ」・モーゼス
モダン・アート・ギャラリー 1947年
© 2020. Grandma Moses Properties Co., NY



企画展示 展示室A



アートギャラリー



アートスペース



常設展示 展示室B



現 東広島市立美術館

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱	施策	目的別事業群名
3 人づくり	6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり	② 芸術文化活動の活性化と歴史・文化の伝承

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 市民から要請があり講師派遣等を行った回数	18 (R1)	18	19	20	20 (R3)	回
(4) ミツ城古墳展示室及び活用イベントへの入場者数	8,000 (R1)	8,000	8,500	9,000	9,000 (R3)	人
(9) 芸術文化ホール年間来場者数	330,000 (R1)	330,000	335,000	335,000	335,000 (R5)	人
(イ) 美術館企画展満足度	80 (R1)	80	83	85	85 (R3)	%
(オ) 美術館入館者数	4,800 (R1)	4,800	15,000	35,000	35,000 (R3)	人
(ホ) 新美術館の認知度	85 (R1)	85	90	90	90 (R3)	%
成果指標項目 (定量的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

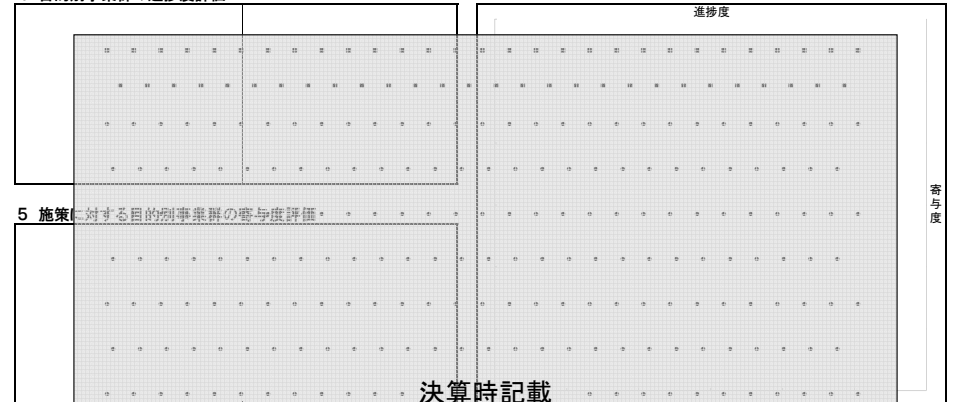
成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 市民から要請があり講師派遣等を行った回数	・H30の目標数値18件に対し17件と下回った。	・毎年、一定量の要望があるが、より一層の文化財保護に対する意識付けが必要と思われる。	・市民が参加できるイベントなどを開催し意識付けを図れば、文化財に対する関心が向上し派遣回数が増えるのではないかと。	・講演会の開催 ・文化財巡り(探検文化財)の開催 ・市webページ等での情報発信
(4) ミツ城古墳展示室及び活用イベントへの入場者数	・H29・30はイベントが中止等になったことや、豪雨災害等もあり、入場者数が減少した。	・不可抗力な部分を除き、R1年度は入場者数が増加傾向にある。	・史跡や付属施設の日常的維持管理を行い、安定的な常時利用を図ることで、入場者数の維持・向上を図れるのではないかと。	・図書館内のガイドンコーナーや、公園管理棟内展示室の展示の修繕 ・古墳のガラス製覆屋や説明板の清掃
(9) 芸術文化ホール年間来場者数	・H30は豪雨災害等があり、目標値33万人に対し実績が約32万9千人で、目標に届かなかった。	・来館者の年齢構成が高齢者の割合が高く、来場者を増やすためには若者世代の来場を増やす必要がある。	・若年層向けの公演企画を増やすことで、学生の利用促進を図れるのではないかと。	・若者に人気の公演を企画し、貸し会場公演の誘致を図る。 ・学生の施設利用を促すための情報発信の拡大
(イ) 美術館企画展満足度	・新美術館の開館準備に伴い、現美術館での企画展の規模は縮小しているが、満足度は高い。	・展示室のスペースが狭く、展示できる企画が限定される。	・新美術館の展示室が広くなったことで、開館後様々な企画展を行うことにより、満足度も高まるのではないかと。	・開館記念特別展の開催
(オ) 美術館入館者数	・企画展の規模の縮小及び7月豪雨災害の影響で減少傾向にある。	・新美術館の準備業務により、思うような企画展ができない。 ・また、災害によりイベントが実施できなかった。	・新美術館開館後、企画展のみならず常設展や市民参加イベントを実施することで、入館者が増加するのではないかと。	・企画展の開催 ・美術館子ども食堂イベント等の開催
(ホ) 新美術館の認知度	・当初の認知度は低かったが、パンフレット等の配布や建築工事の進捗によって、認知度が増した。	・紙媒体での広報や市のホームページへの掲載だけでは、認知度を増やすことに限界がある。	・様々な媒体での広報を活用しPRを推進することで、美術館の認知度が高まるのではないかと。	・新美術館専用のホームページを新設し、情報を発信していく。 ・新聞、テレビやラジオでの広報

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

№	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算値	R2 年度当初予算値	寄与度
				R1 年度決算値	R2 年度決算値	
1	芸術文化振興事業 10・5・1	文化課		238,707	242,298	14.0%
2	美術館管理運営事業 10・5・3	文化課		61,306	181,585	14.0%
3	美術館建設事業 10・5・3	文化課		1,412,905	267,773	11.0%
4	指定文化財等管理活用事業 10・5・5	文化課		19,877	21,096	13.0%
5	文化財調査保護事業 10・5・5	文化課		8,919	3,973	14.0%
6	文化財施設等整備事業 10・5・5	文化課		38,779	3,312	11.0%
7	埋蔵文化財調査事業 10・5・5	文化課		19,766	15,999	13.0%
8	出土文化財管理活用事業(一部) 10・5・5	文化課		11,011	12,541	10.0%
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

4 目的別事業群の進捗度評価



6 今後に向けての方針と分析

6 今後に向けての方針と分析	
----------------	--

令和 2 年度 目的別事業群総括（ 予算 ）シート

まちづくり大綱	3 人づくり	施策	6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり
施策の将来の目標像	市民が主体となった学習活動が活発になり、生涯にわたってスポーツを楽しめる環境が形成されています。また、東広島市の歴史・文化が伝承され、市民の文化芸術活動が活性化されています。		

目的別事業群名	③ 生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成	主幹部局・所属	生涯学習部 スポーツ振興課	
連携部局・所属				
目的	・スポーツを楽しむ、生涯に渡り豊かなスポーツライフを実現する環境の充実 ・市民が身近にスポーツに親しみ利用しやすい施設の整備及び管理運営			
成果項目 (成果物)	市民スポーツ大会、新春駅伝競走大会、スポーツ推進委員研修会等の開催、メキシコ選手団事前合宿の受入、オリンピック聖火リレー及びパラリンピック聖火採火式の開催、安芸津B&G体育館屋根改修、八本松市民プール解体工事			
成果指標 (成功基準)	全主催事業参加者数18,100人、交流事業参加人数3,200人、体育施設利用者数292,267人			
コスト情報	目的別事業群事業費(千円)		R2 年度人件費(千円)	
		当初予算額		決算額
		一般財源		一般財源
	R2 年度	369,849		
		270,234		
	R1 年度	392,075		
		268,521		

内容

1 生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成

(1) スポーツのきっかけづくりと推進体制の充実 (69,795千円(前年度67,953千円))

高齢化が進む中で、市民がライフステージにあわせた多様なスポーツにふれあえる機会や、スポーツ活動の充実を図ることが求められており、市民がスポーツへの関心やきっかけづくりにつながる様々なスポーツ行事を開催する。

① スポーツ活動の活性化 (47,926千円(前年度52,929千円))

ア スポーツ行事等の開催 (うち30,128千円)

(ア) 体育・スポーツなどの振興に関する情報収集・調査研究並びに情報提供、生きがい健康体育大学や各種スポーツ教室等の開催、スポーツに関する備品・用具の貸出業務等を教育文化振興事業団に委託する。

(イ) 健康増進や地域・職域等のコミュニケーションの醸成を図る。

a 市民スポーツ大会の開催

開催日

陸上の部:6月7日(日)

球技の部:9月27日(日)

場所:東広島運動公園ほか

(令和元年度 参加人数:3,000人)

b 東ひろしま新春駅伝競走大会の開催

開催日:1月9日(土)

場所:東広島運動公園陸上競技場発着

(令和元年度 参加人数:3,500人)

c ひろしま県央競歩大会の開催

開催日:11月29日(日)

場所:東広島運動公園陸上競技場



市民スポーツ大会

東ひろしま新春駅伝競走大会

イ スポーツを支える人材育成と高齢者の運動習慣づくり (うち6,168千円)

(ア) スポーツの普及や実技指導、スポーツに関する指導や助言を行うスポーツ推進委員(84人 令和元年度)を委嘱し、資質向上に向けた研修会を開催する。

(イ) 地域住民の健康を地域で支える仕組みづくりに向けてコミュニティ健康運動パートナー(55人 令和元年度)を育成するとともに、健康寿命の延伸に向けて高齢者が無理なく取り組むことができるスポーツの普及を支援する。

ウ 競技スポーツの振興 (うち5,260千円)

(ア) トップアスリート(広島ドラゴンフライズ)との交流を通して、競技スポーツへの関心を高め、競技人口の拡大を図る。

a 小学校訪問

開催時期:9月

場所:小学校4校程度

b バスケットボールクリニック

開催時期:9月

対象:小学生・中学生(各1回)

場所:東広島運動公園メインアリーナ



小学校訪問



バスケットボールクリニック

(イ) 全国大会等へ出場する選手又は団体に奨励金を交付する。

エ スポーツ団体の育成 (うち6,370千円)

(ア) 東広島市体育協会が行う活動を支援する。
加盟団体数:30団体(令和元年度)

(イ) 東広島市スポーツ少年団が行う活動を支援する。
加盟単位団体数:76団体(令和元年度)

② オリンピック事前合宿等の推進 (21,869千円(前年度15,024千円))

ア メキシコ選手団の事前合宿の受入 (うち12,288千円)

東京2020オリンピックに出場するメキシコ選手団(卓球、レスリング、ゴルフ)の事前合宿を支援する。

合宿予定期間

卓球:7月上旬～中旬

レスリング:7月中旬～下旬

ゴルフ:調整中

【新】イ 東京2020オリンピック聖火リレーの実施 (うち6,254千円)

東京2020オリンピックへの期待感の向上等につなげる聖火リレーを、本市で実施する。

実施日:5月18日(月)

コース:西条駅南口交差点～御園宇ランプ交差点

【新】ウ 東京2020パラリンピック聖火採火式の開催 (うち3,327千円)

東京2020パラリンピックの機運の醸成等に向けて、「東京2020パラリンピック聖火」の元となる「東広島市の火」の採火式を開催する。

開催日:8月15日(土)

場所:県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センターおびづる

(2) スポーツ施設の管理運営と整備 (282,936千円(前年度308,023千円))

市民のスポーツ活動の充実を図るため、市民が身近に親しみ利用しやすい施設を整備し、その管理運営を行う。

① スポーツ施設の管理運営 (182,367千円(前年度183,296千円))

ア 施設の維持管理と運営 (うち182,367千円)

指定管理施設:体育館(1) プール(1) グラウンド(8) コミュニティスポーツ広場(9) パークゴルフ場(2) B&G海洋センター(2)

② スポーツ施設の整備 (100,569千円(前年度124,727千円))

ア 施設の整備 (うち68,469千円)

安芸津B&G体育館に雨漏りが発生したため屋根の改修工事を行う。

イ 施設の解体 (うち32,100千円)

令和2年度に適正配置計画で廃止予定の八本松市民プールの解体を行う。

(3) 学校体育施設の市民開放 (17,118千円(前年度16,099千円))

市民のスポーツ活動の充実を図るため、学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育施設を市民に開放し、地域スポーツの振興を図る。

① 学校体育施設の開放 (17,118千円(前年度16,099千円))

ア 体育館・グラウンドの開放 (うち7,673千円)

(ア) 市内公立の小学校(34校)及び中学校(14校)の体育施設を、学校教育に支障がない範囲内で、スポーツ・レクリエーション活動を行う市内在住者で構成された団体を対象に開放する。

【新】(イ) 学校体育施設開放システムの構築を行う。

現在、学校開放事業は各小中学校で事務を行っており、学校教育以外の業務で負担になっているため、インターネットなどで予約状況の閲覧や、施設の利用予約等ができるシステムを構築し、利用者の利便性の向上を図る。

イ プール開放 (うち9,445千円)

市内公立の小学校のプールを、夏季休業中に無料開放する。

管理シート

施策及び目的別事業群の概要

まちづくり大綱		施策	目的別事業群名
3	人づくり	6 市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり	③ 生涯にわたってスポーツを楽しめる環境の形成

1 目的別事業群の評価指標(KPI)

成果指標項目 (定量的指標)	初期値 (年度)	成果指標			終期目標値 (年度) 達成率	単位
		R1	R2	R3		
(7) 全主催事業参加者数	15,465 (H26)	14,700	18,100	18,600	21,000 (R8)	人
(4) 交流事業参加人数	1,400 (H30)	3,300	3,200	-	3,200 (R2)	人
(9) 指定管理者モニタリング施設稼働率の平均値	65 (H30)	80	80	80	80 (R8)	%
(1) 社会体育施設改修計画のうち完了した箇所数の割合	10 (H21)	88	92	-	92 (R2)	%
(オ)	()				()	
(カ)	()				()	
成果指標項目 (定性的指標)						達成率

2 成果指標項目(定量的指標)の現状分析から具体的取組までの筋道

成果指標項目 (定量的指標)	現状分析	課題の把握	解決のための仮説	具体的取組
(7) 全主催事業参加者数	・令和元年度は、市民スポーツ大会球技部の雨天中止による減の影響が大きい。	・既存事業の参加者数は飽和状態に近い。	・スポーツのきっかけづくりにつながる新たな取組を増やすことで、参加者数を増やすことができるのではないか。	・令和2年度中に新たな取組を検討し、令和3年度から開始する。
(4) 交流事業参加人数	・令和元年度は、メキシコ側の事情によるレスリングと卓球の合宿中止と、雨天によるゴルフの交流事業による人数減	・オリンピック・パラリンピック開催年の機運醸成	・市民が多様な形(する・みる・支える)に関わる関連事業を開催することで参加人数の増加を見込めるのではないかと。	・メキシコ選手団の合宿受入、オリンピック聖火リレー、パラリンピック聖火採火式を開催する。
(9) 指定管理者モニタリング施設稼働率の平均値	・昨年度は災害ゴミの仮置き場で稼働率が下がったが、昨年度中に復旧できたため、今年度の影響はない。	・老朽化した施設や設備が多く、修繕料が増加傾向にある。	・指定管理者との連携のもと修繕個所の把握を行い計画的に修繕を行う。	・アンケート調査により利用者のニーズを把握し施設の修繕、改修などを行う。
(1) 社会体育施設改修計画のうち完了した箇所数の割合	・昨年度の豪雨災害の影響で予定していた事業が先送りになり、今年度事業を実施している。	・老朽化した施設や設備が多く改修費用が継続的に必要である。	・地域の要望等を踏まえ、整備や改修、廃止を計画的に行っていく必要がある。	・各施設の長期的な改修計画を作成する。
(オ)				
(カ)				

3 目的別事業群を構成する事務事業の寄与度等

(単位:千円)

No.	事務事業名 款・項・目	所属	人役	R1 年度当初予算額	R2 年度当初予算額	寄与度
				R1 年度決算額	R2 年度決算額	
1	スポーツ活動活性化事業 10・6・1	スポーツ振興課		52,929	47,926	25.0%
2	オリンピック事前合宿等推進事業 10・6・1	スポーツ振興課		15,024	21,869	10.0%
3	スポーツ施設管理運営事業 10・6・2	スポーツ振興課		183,296	182,367	23.0%
4	スポーツ施設整備事業 10・6・2	スポーツ振興課		124,727	100,569	21.0%
5	学校体育施設開放事業 10・6・2	スポーツ振興課		16,099	17,118	21.0%
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						

4 目的別事業群の進捗度評価

進捗度	寄与度
5 施策に対する目的別事業群の寄与度評価	決算時記載

6 今後に向けての方針と分析

--	--